



Kyushu FG

会社説明会 2020年12月

株式会社九州フィナンシャルグループ
Kyushu Financial Group, Inc.



2020年9月期 決算概要

1. 決算概況	4
2. 資金利益	5
3. 総資金利鞘と利回り	6
4. 役務取引等利益	7
5. 経費	8
6. 貸出金	9
7. 与信費用と金融再生法開示債権	10
8. 有価証券	11
9. 総預金	12
10. 自己資本比率	13
11. 業績予想	14

九州フィナンシャルグループの経営戦略

1. 九州フィナンシャルグループの価値創造プロセス	16
2. 地元経済の業況	17
3. 新型コロナウイルス感染症に対する取り組み	18
4. コロナ禍におけるデジタル化への取り組み	20
5. 指標目標と2020年度中間期実績	21
6. 貸出金の状況	22
7. 市場運用への取り組み	23
8. 「銀・証・信連携の確立」への取り組み	24
9. 地域産業振興機能の発揮（1）クラフト・ファウンディング事業	25
10. 地域産業振興機能の発揮（2）創業支援	26
11. DX（デジタルトランスフォーメーション）への取り組み	27
12. SDGs・ESG課題への取り組み	28
13. 資本政策～株主還元	32

2020年9月期 決算概要



1. 決算概況

・業務粗利益は、役務取引等利益及びその他業務利益は減少したものの、外貨資金の調達コストの減少等により資金利益が増加したこと
から、前年同期並みの570億円となった。

・経常利益は、経費の増加及び一般貸倒引当金繰入額等の増加により、前年同期比32億円減少の130億円、中間純利益は19億円減少
の92億円となった。

損益状況

K F G 連結

2行合算

(億円)

決算ポイント (K F G 連結)

	2020年度 中間期	前年同期比	2019年度 中間期	2020年度 中間期	前年同期比	2019年度 中間期
経常収益	897	52	845	716	17	699
業務粗利益	570	0	569	551	4	546
資金利益	445	9	435	465	16	449
役務取引等利益	61	△ 6	68	53	△ 8	62
特定取引利益	2	0	2	0	0	0
その他業務利益	60	△ 2	63	31	△ 3	34
(うち国債等債券損益)	23	△ 15	39	23	△ 15	39
経費 (△)	395	21	374	369	18	350
コア業務純益	150	△ 5	155	157	1	155
一般貸倒引当金繰入額(△)	24	27	△ 3	23	27	△ 4
業務純益	150	△ 48	198	157	△ 42	199
臨時損益	△ 20	15	△ 36	△ 3	△ 2	△ 1
不良債権処理額(△)	20	2	18	17	2	15
株式等関係損益	4	17	△ 13	17	0	16
その他臨時損益	△ 3	0	△ 4	△ 3	△ 0	△ 2
経常利益	130	△ 32	162	153	△ 44	198
特別損益	△ 0	0	△ 0	△ 0	0	△ 1
税引前中間純利益	129	△ 31	161	153	△ 43	197
中間純利益	92	△ 19	111	114	△ 25	139
(与信費用)	45	29	15	41	30	11

○資金利益 前年同期比 + 9 億円

- ・貸出金利息 + 0億円
- ・有価証券利息配当金 + 1億円
- ・外貨調達コスト △23億円

○役務取引等利益 前年同期比 △6億円

- ・預り資産関連手数料 △3億円
- ・団信保険料 (△) + 4億円

○その他業務利益 前年同期比 △2億円

- ・国債等債券損益 △15億円
- 臨時損益 前年同期比 + 15億円
- ・株式等関係損益 + 17億円
- (うち株式等償却 △22億円)

○経費 前年同期比 + 21億円

- ・人件費 + 8 億円
- ・物件費 + 7 億円
- ・税金 + 5 億円

○与信費用 前年同期比 + 29億円

- ・一般貸倒引当金繰入額 + 27億円
- ・不良債権処理額等 + 2億円

2. 資金利益

・資金利益は、有価証券利息配当金の増加及び外貨調達コストの減少により前年同期比16億円増加し465億円となった。

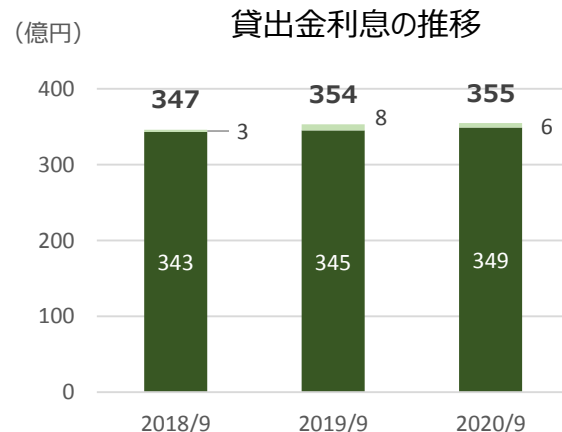
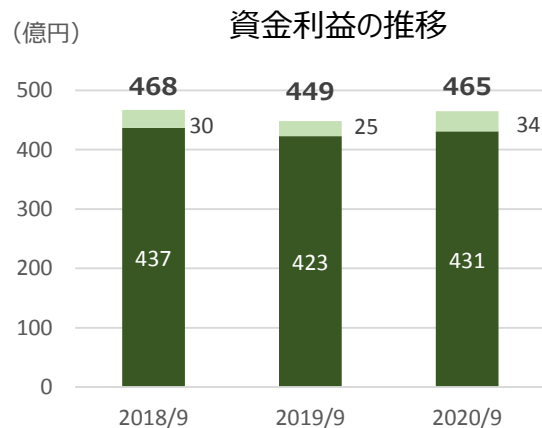
国内部門 前年同期比 +7億円 (貸出金利息+3億円 有価証券利息配当金+2億円)

国際部門 前年同期比 +8億円 (貸出金利息△2億円 有価証券利息配当金+5億円 外貨調達コスト△23億円)

資金利益の状況 (2行合算)

(億円)

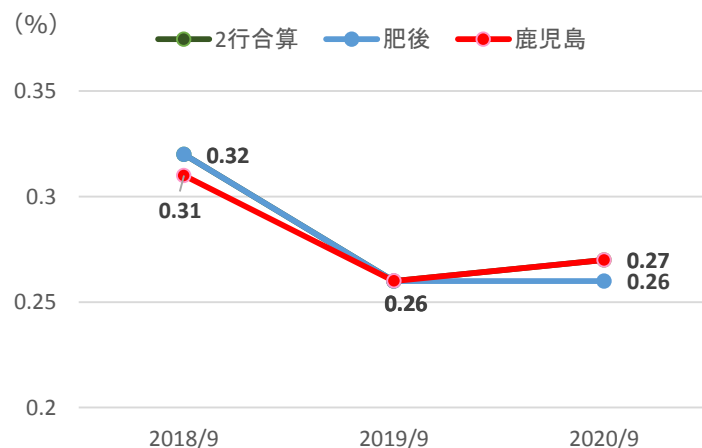
	2018/9			2019/9			2020/9			2019/9比 増減
	2行合算	肥後	鹿児島	2行合算	肥後	鹿児島	2行合算	肥後	鹿児島	
資金利益	468	233	234	449	221	227	465	225	239	16
国内部門	437	208	229	423	203	220	431	205	225	7
うち貸出金利息	343	164	179	345	165	180	349	167	181	3
うち有価証券利息	108	55	52	88	46	42	91	45	46	2
うち預金利息 (△)	4	1	2	3	1	2	2	1	1	△0
国際部門	30	25	5	25	18	7	34	19	14	8
うち貸出金利息	3	3	0	8	5	2	6	4	1	△2
うち有価証券利息	45	35	10	59	44	15	65	41	24	5
うち預金利息 (△)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	△0
うち外貨調達コスト (△)	16	12	4	37	29	8	14	9	4	△23



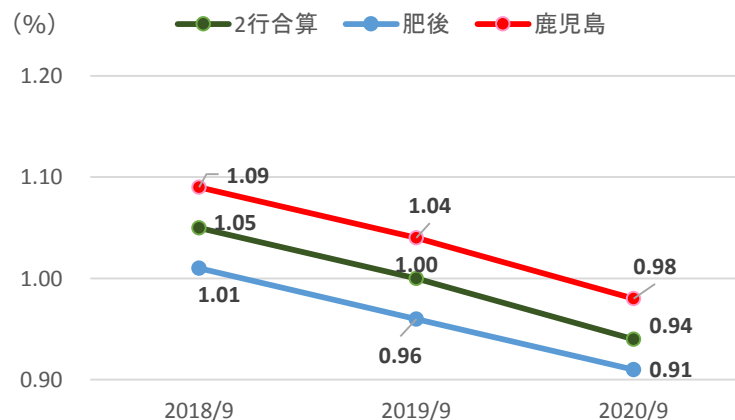
3. 総資金利鞘と利回り

- ・資金運用利回りは、有価証券利回りが上昇したものの、貸出金利回りの低下により、前年同期比△0.05%の1.04%となった。
- ・総資金利鞘は、資金運用利回りが低下したものの、資金調達原価も低下したことから、前年同期比+0.01%の0.27%となった。

総資金利鞘の状況

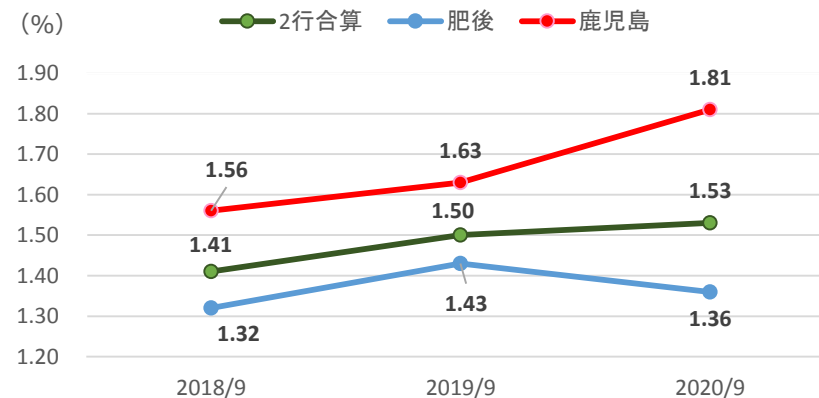


貸出金利回り



	2019/9	2020/9			増減
	2行合算	2行合算		2行合算	
		肥後	鹿児島		
①資金運用利回り	1.09%	1.04%	0.99%	1.10%	△0.05%
貸出金利回り	1.00%	0.94%	0.91%	0.98%	△0.06%
有価証券利回り	1.50%	1.53%	1.36%	1.81%	0.03%
②資金調達原価	0.83%	0.77%	0.73%	0.83%	△0.06%
資金調達利回り	0.11%	0.09%	0.11%	0.05%	△0.02%
うち預金等利回り	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	△0.00%
総資金利鞘（①-②）	0.26%	0.27%	0.26%	0.27%	0.01%

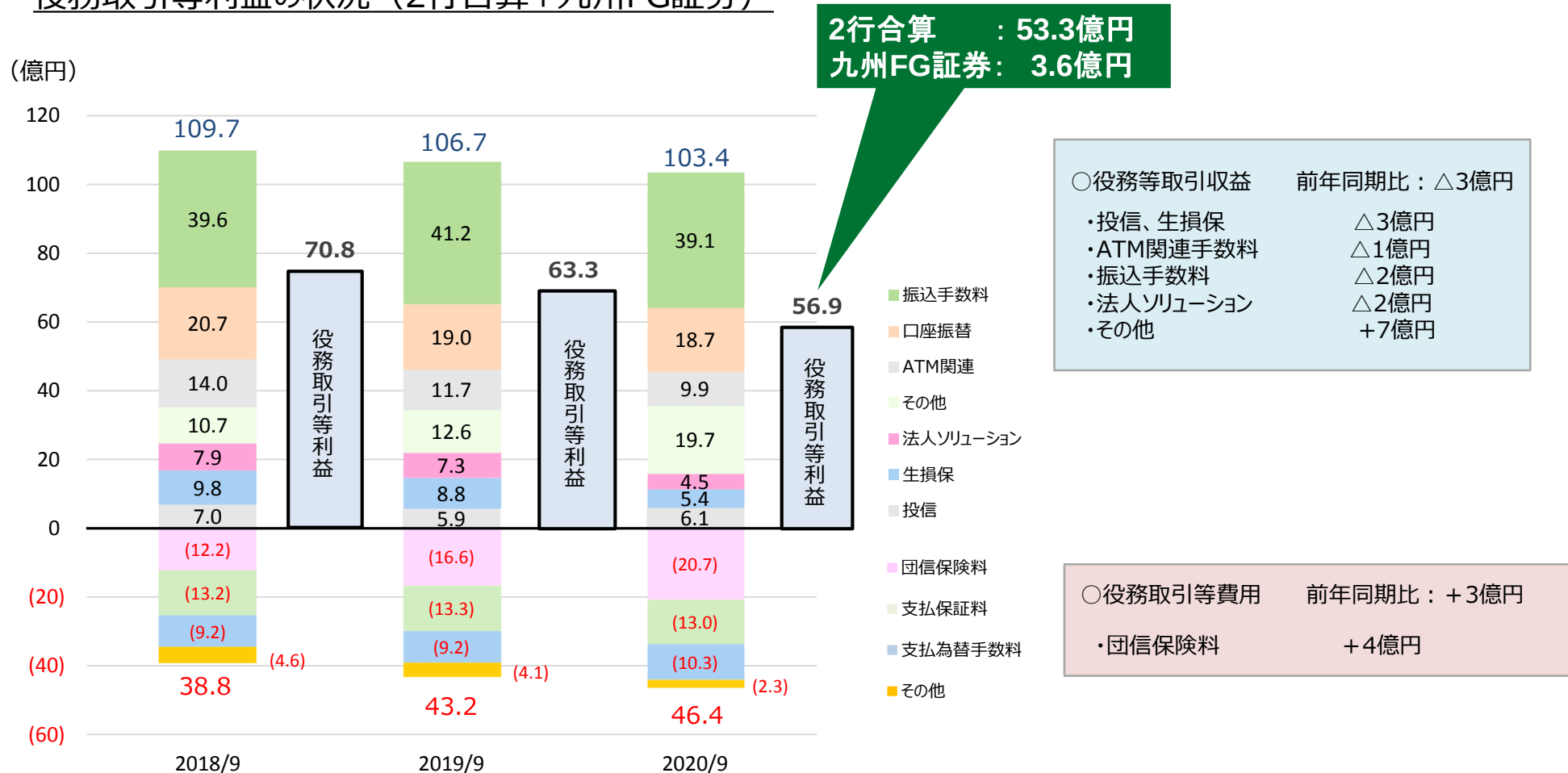
有価証券利回り



4. 役務取引等利益

・2行及び九州FG証券合算の役務取引等利益は、預り資産関連手数料の減少や団信保険料の増加等により、前年同期比6億円減少して56億となった。

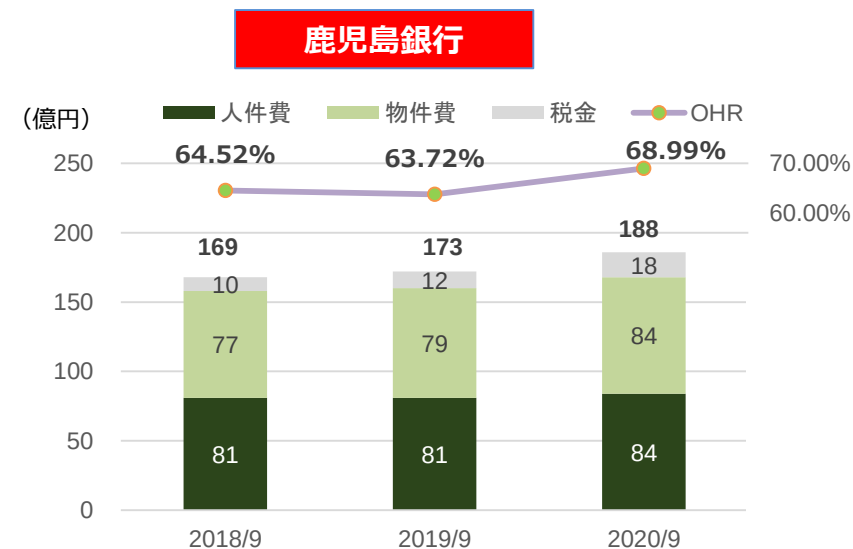
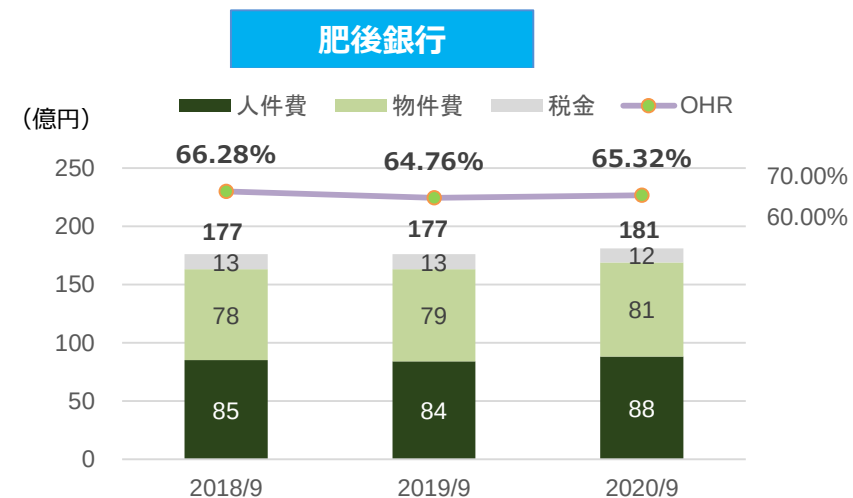
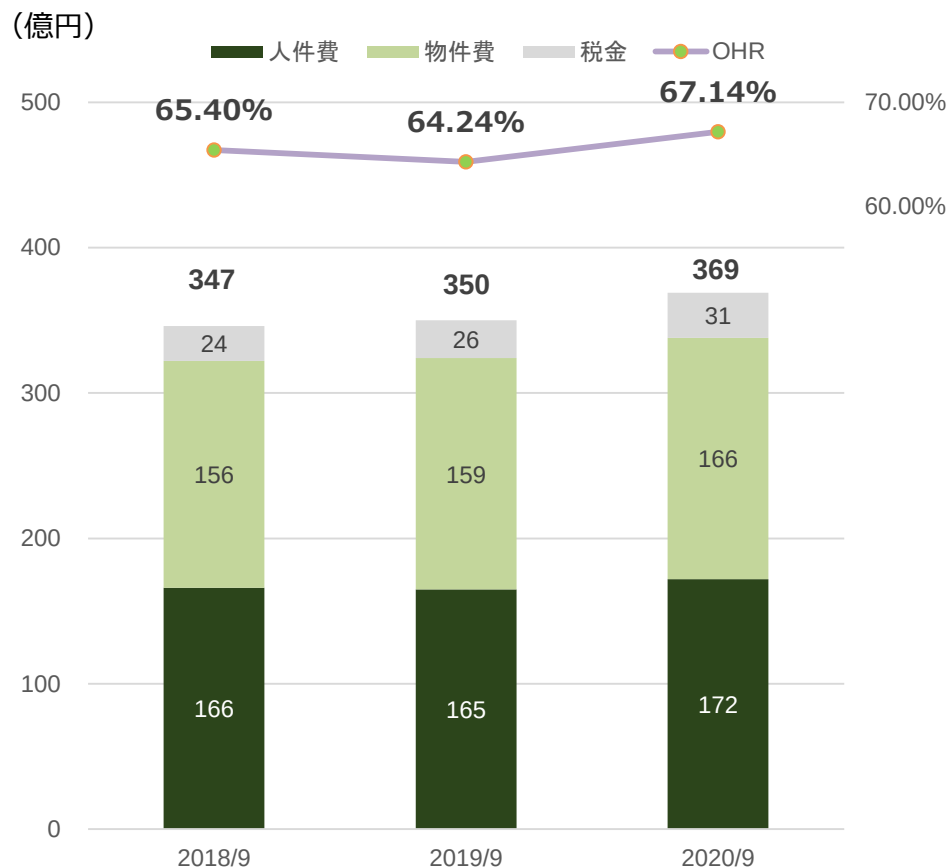
役務取引等利益の状況（2行合算+九州FG証券）



5. 経費

- ・経費は、人件費及び物件費、税金が増加したことから、前年同期比18億円増加し369億円となった。
- ・業務粗利益は増加したものの、経費も増加したため、OHRは前年同期比+2.90%の67.14%となった。

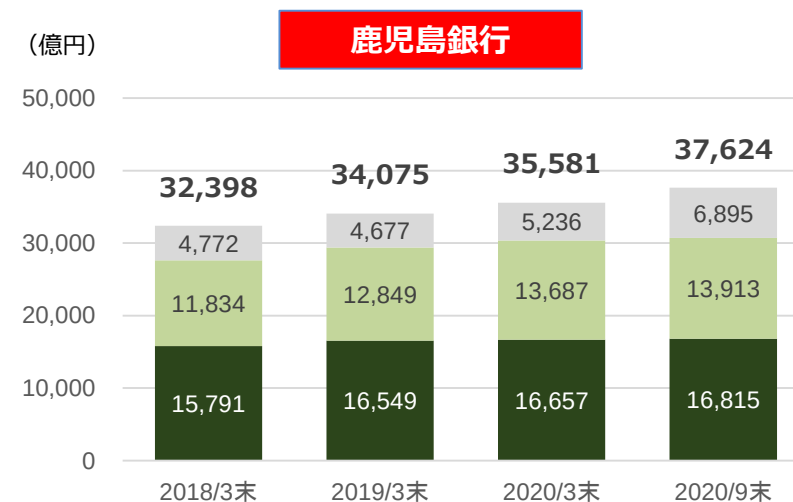
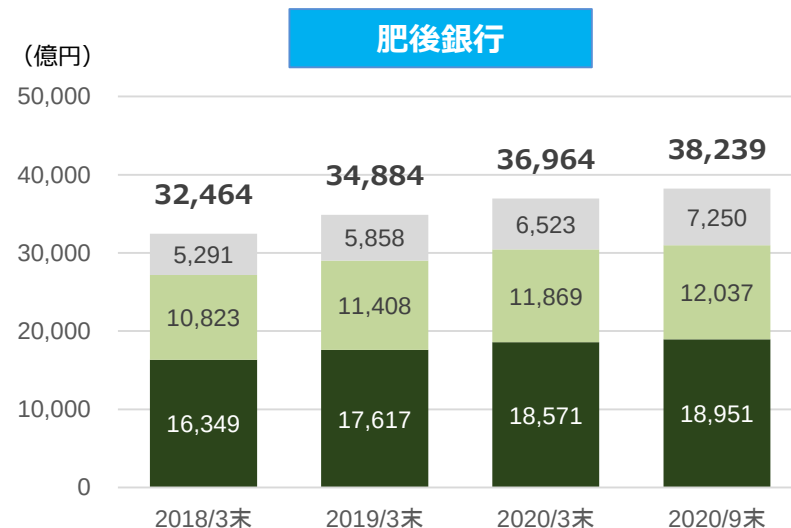
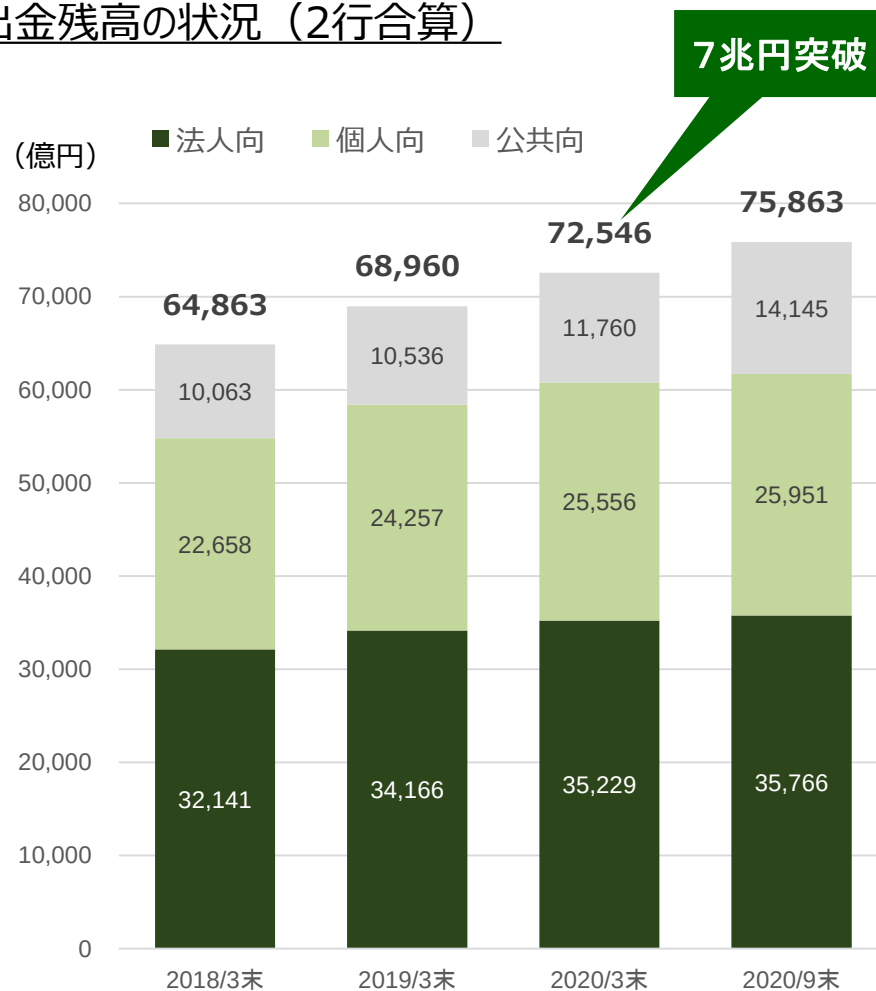
経費の状況（2行合算）



6. 貸出金

- ・貸出金残高は、前年度末比3,317億円増加（増減率+4.5%）し、7兆5,863億円となった。
- ・法人向け、個人向け、公共向けのいずれも順調に増加
（法人向け：+537億円 個人向け：+394億円 公共向け：+2,385億円）

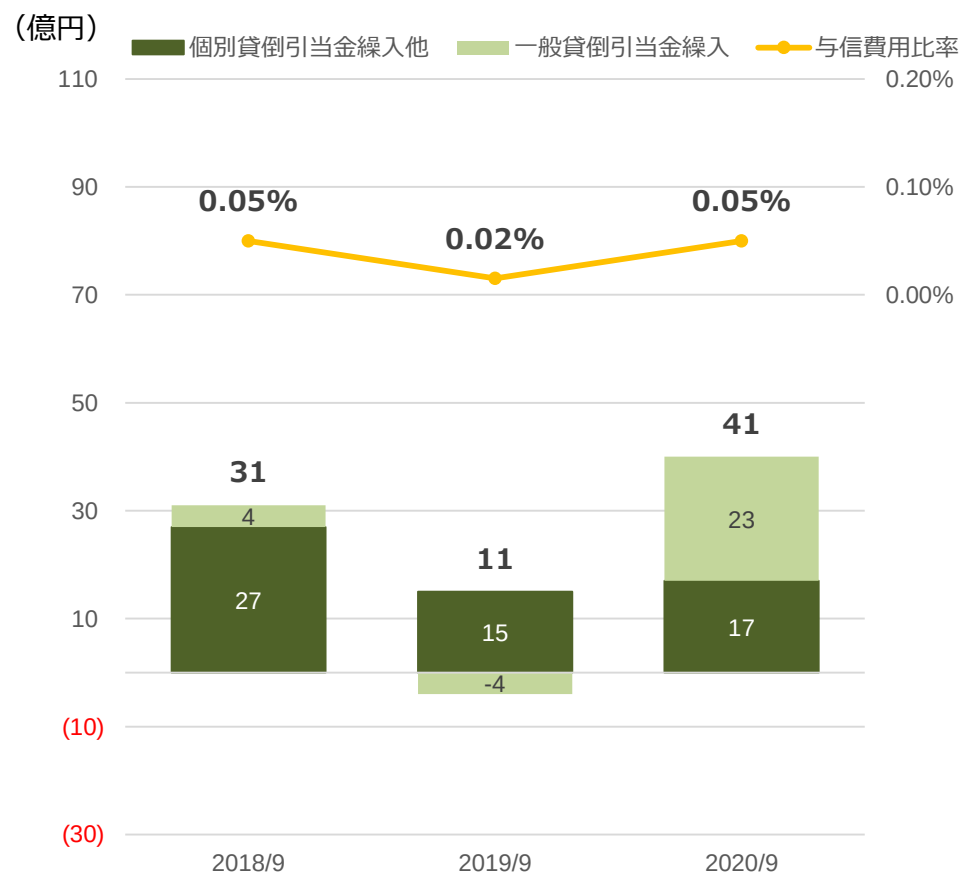
貸出金残高の状況（2行合算）



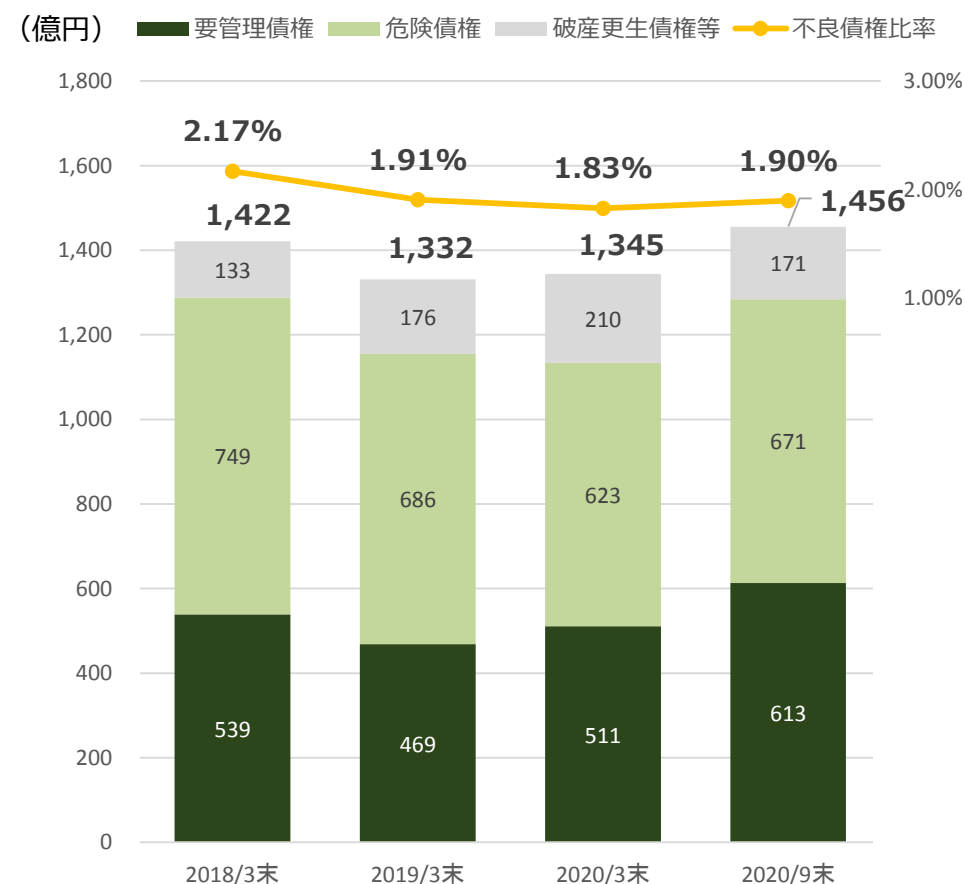
7. 与信費用と金融再生法開示債権

- ・与信費用は、一般貸倒引当金繰入額及び不良債権処理額が増加したことから、前年同期比30億円増加し41億円となった。
- ・金融再生法開示債権は、前年度末比111億円増加し1,456億円、不良債権比率は1.90%となった。

与信費用の状況（2行合算）



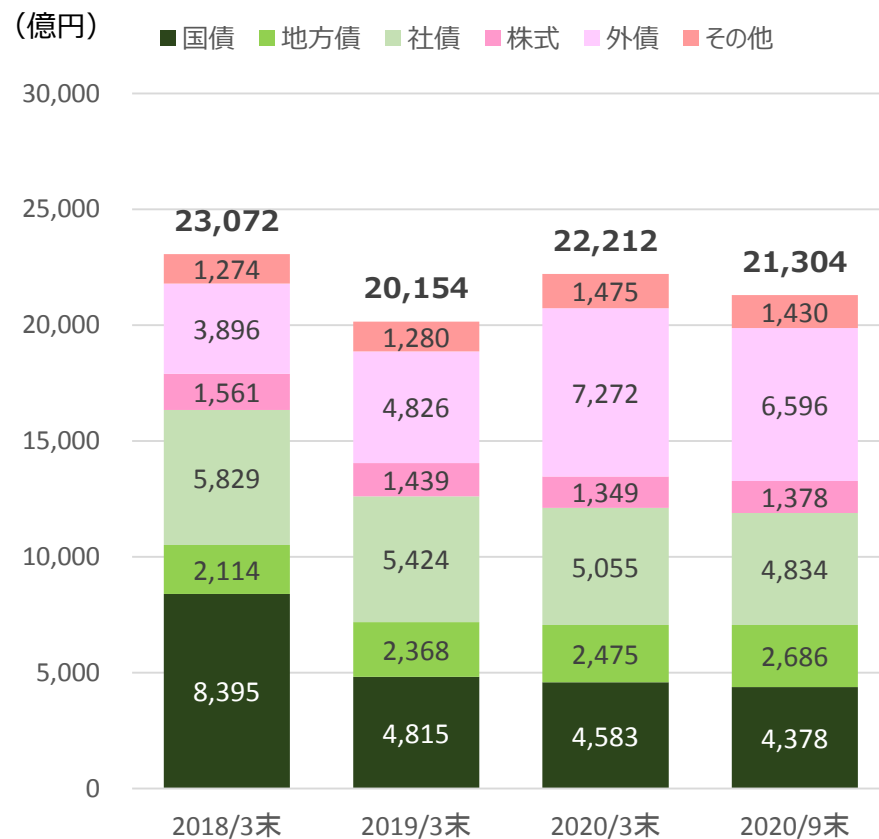
金融再生法開示債権の状況（2行合算）



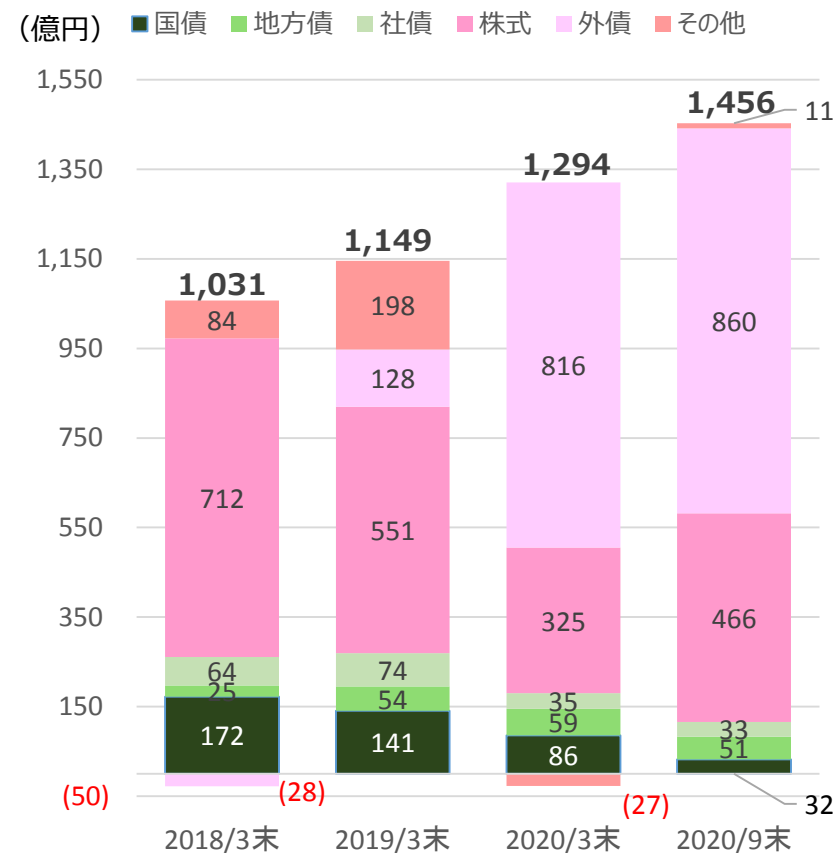
8. 有価証券

- ・有価証券残高は、外債を中心に減少し、前年度末比907億円減少の2兆1,304億円となった。
- ・有価証券評価損益は、株式の評価損益が改善したことから、前年度末比162億円増加し1,456億円となった。

有価証券残高の状況（2行合算）



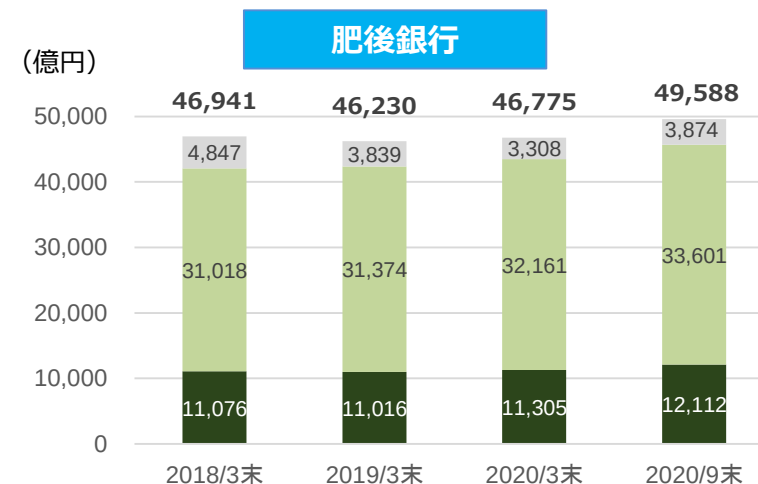
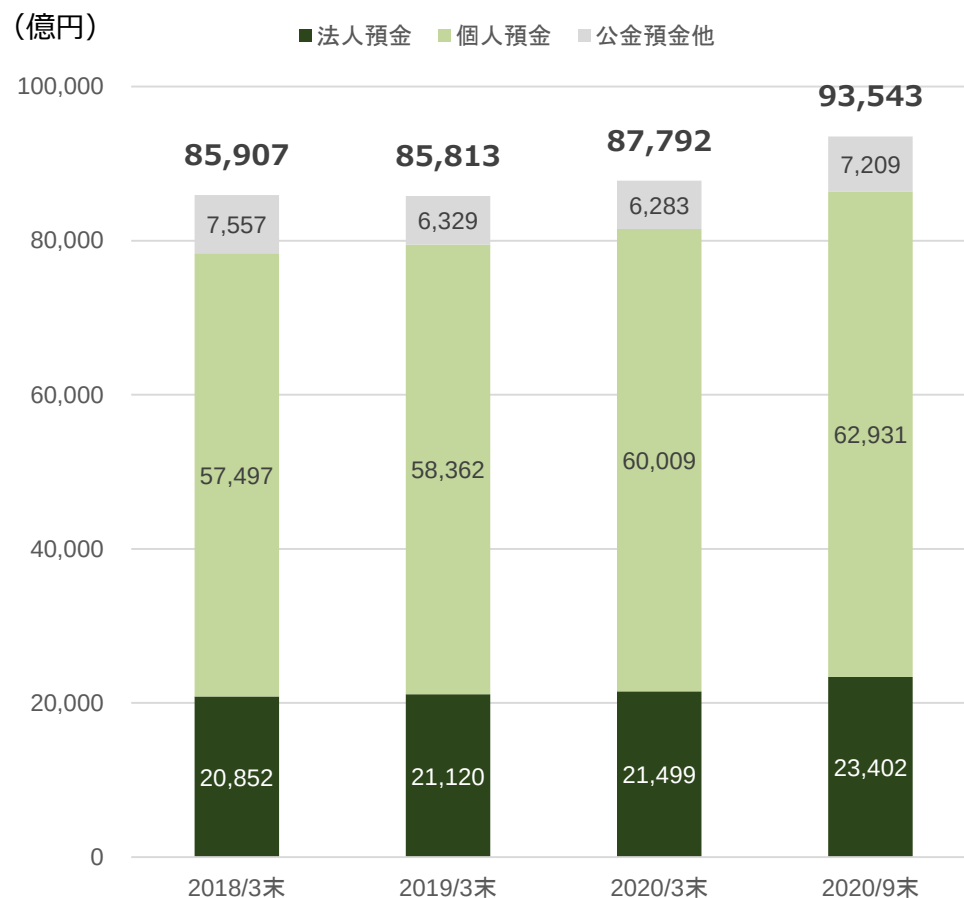
有価証券評価損益の状況（2行合算）



9. 総預金

・総預金残高は、すべてのセクターで増加したことから前年度末比5,751億円（増減率+6.5%）増加し、9兆3,543億円となった。
（法人預金：+1,903億円 個人預金：+2,921億円 公共他：+926億円）

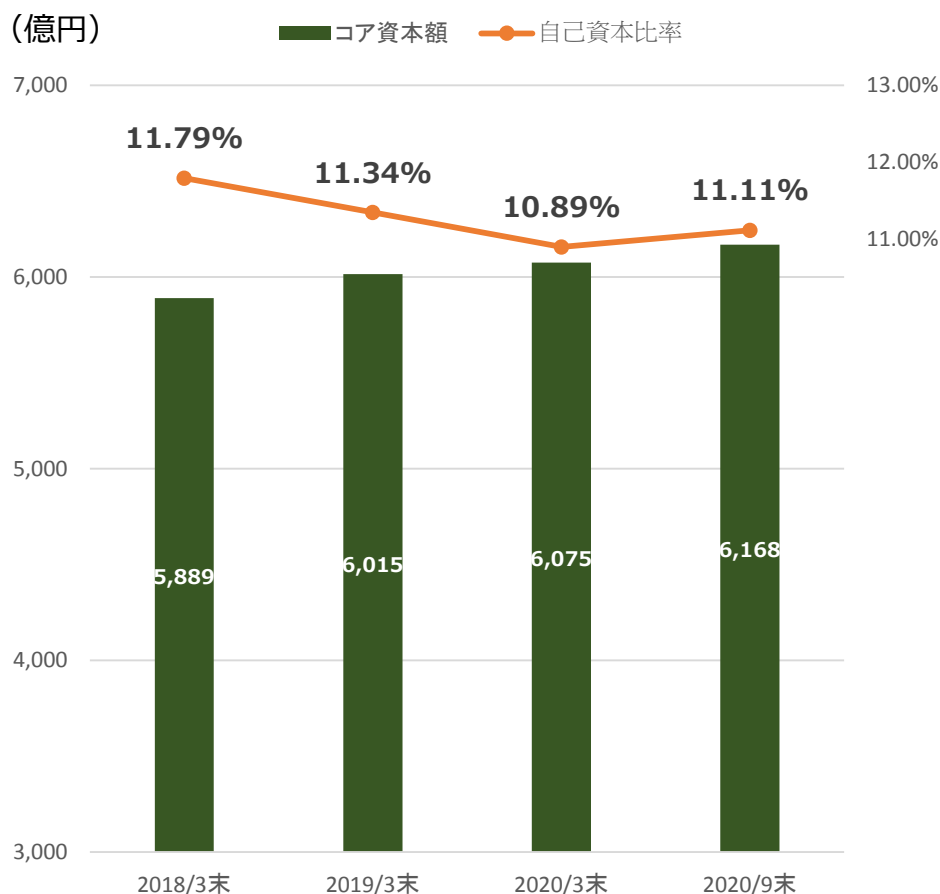
総預金残高の状況（含むNCD 2行合算）



10. 自己資本比率

- ・コア資本額は前年度末比93億円増加し、6,168億円となった。
- ・コア資本額は増加し、リスクアセットも減少したため、自己資本比率は前年度末比+0.22%の11.11%となった。

自己資本比率の状況（K F G連結）



自己資本比率（K F G連結）

	(億円)		
	2020/3	2020/9	増減
①コア資本額	6,075	6,168	93
うち株主資本の額	6,011	6,078	66
②リスクアセット	55,758	55,521	△237
③自己資本比率（①÷②）	10.89%	11.11%	0.22%

自己資本比率（2行合算）

					(億円)
	2020/3	2020/9			増減
	2行合算	2行合算			2行合算
			肥後	鹿児島	
①コア資本額	5,668	5,773	2,883	2,890	105
うち株主資本の額	5,577	5,655	2,874	2,781	78
②リスクアセット	55,132	54,878	27,305	27,573	△254
③自己資本比率（①÷②）	10.28%	10.51%	10.55%	10.48%	0.23%

2020年度業績予想（K F G連結）

	(億円)		
K F G連結	2020/3	2021/3	増減
連結経常収益	1,721	1,714	△ 7
連結経常利益	270	244	△ 26
親会社株主に帰属する当期純利益	182	150	△ 32

2020年度業績予想（2行単体の単純合算）

	(億円)				
	2020/3	2021/3			増減
	2行合算	2行合算	肥後	鹿児島	2行合算
経常収益	1,390	1,364	714	650	△ 26
業務粗利益	1,055	1,056	525	531	0
経費	700	729	366	363	28
業務純益	348	290	132	158	△58
経常利益	347	239	114	125	△108
当期純利益	240	162	77	85	△78
(与信費用)	11	90	45	45	78

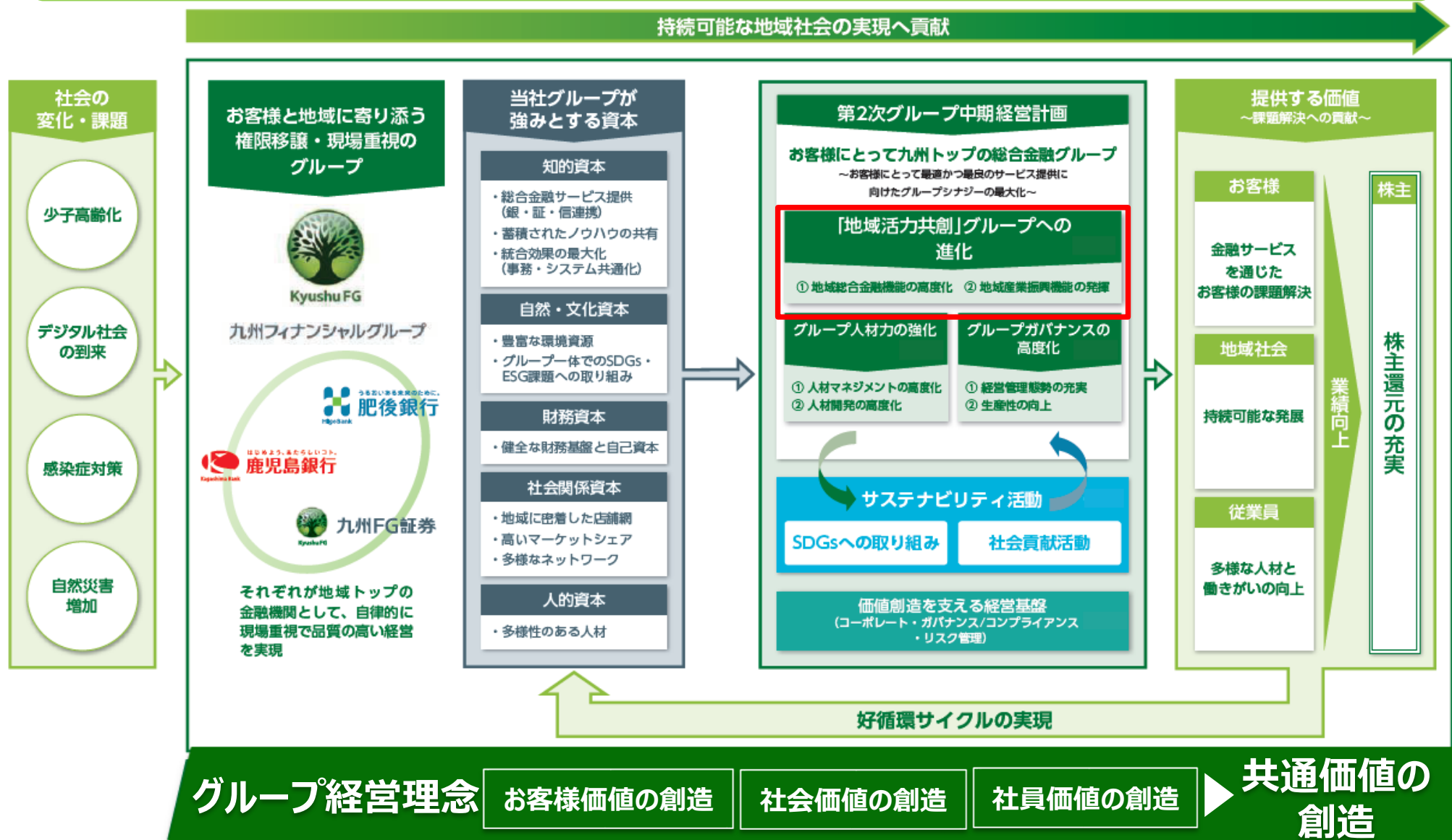
九州フィナンシャルグループの経営戦略



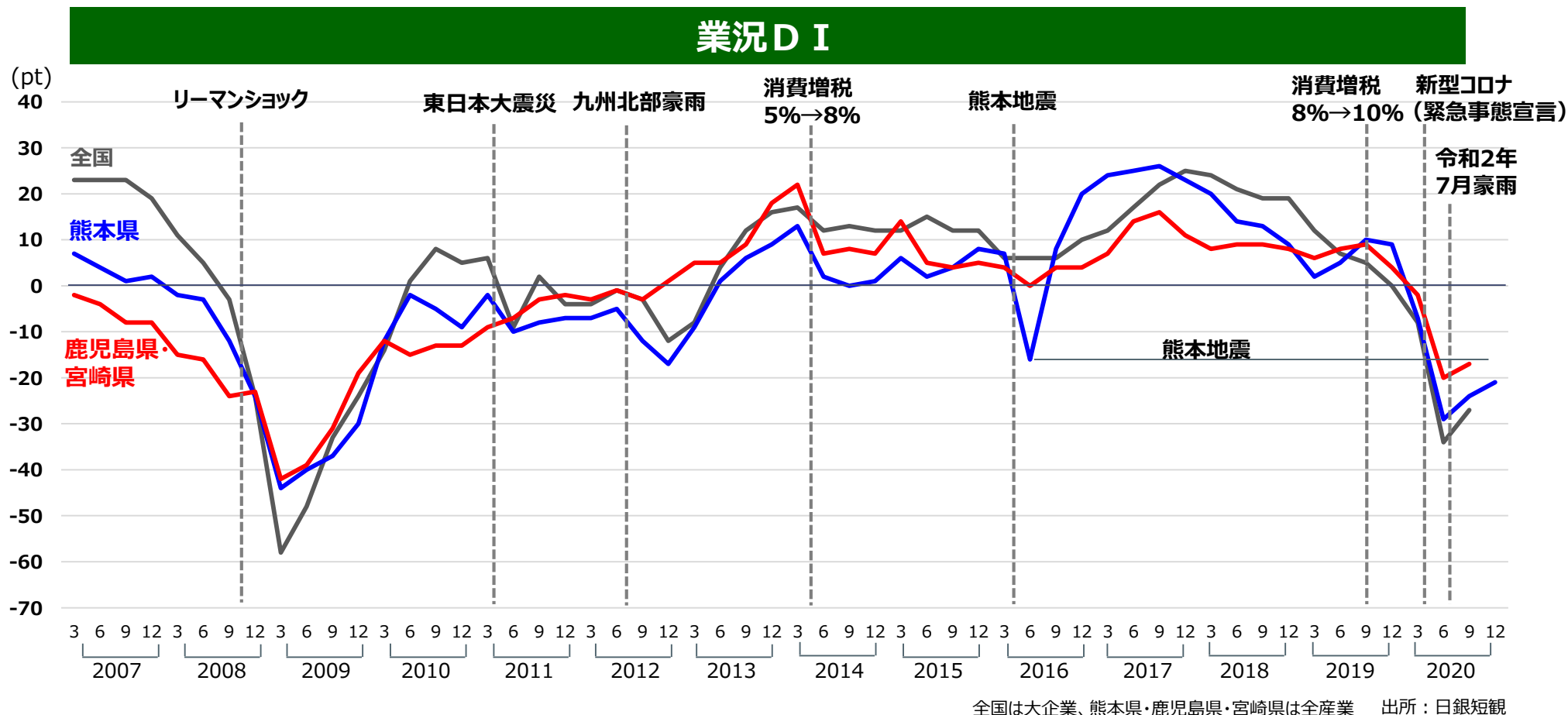
1. 九州フィナンシャルグループの価値創造プロセス

九州フィナンシャルグループ

九州フィナンシャルグループは、みなさまから真に愛される総合金融グループを目指し、持続可能な地域社会の実現に永続的に取り組んでまいります。



コロナの影響により一時、熊本地震時の水準以下まで低下したが、2020年6月を底に下げ止まり感がある状況。

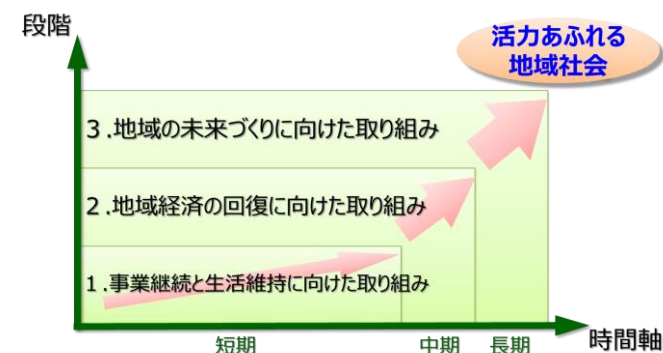


3. 新型コロナウイルス感染症に対する取り組み（1）

当社グループの取り組み姿勢表明（2020.5）

- 当社グループの取り組み姿勢の明示
- 「新型コロナウイルス感染症対策委員会」を設置

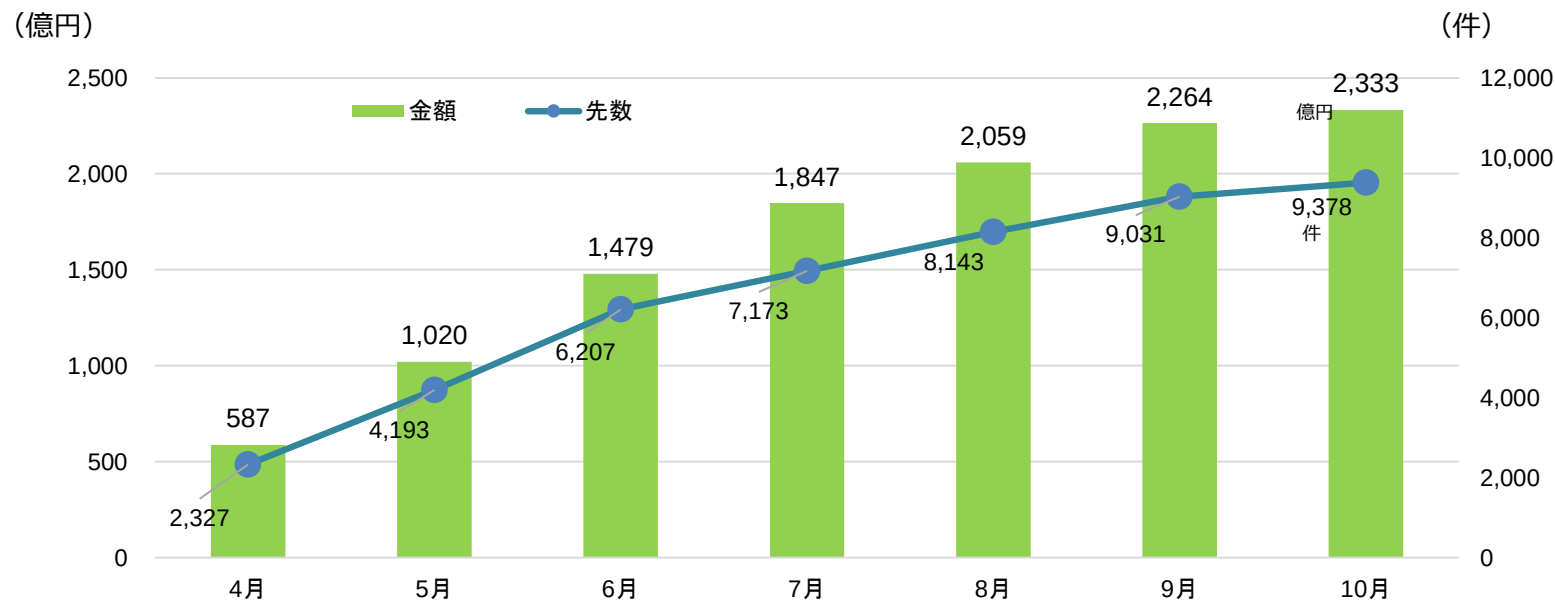
新型コロナに対するグループ横断的な情報共有の促進及びお客様・地域経済への貢献について協議することを目的に、社長を委員長とする「新型コロナウイルス感染症対策委員会」を設置。



迅速な資金繰り支援

事業性資金 実行額・実行先数（2020.10月末累計）

融資実行額 2,333億円 実行先数 9,378件 条件変更対応 934件



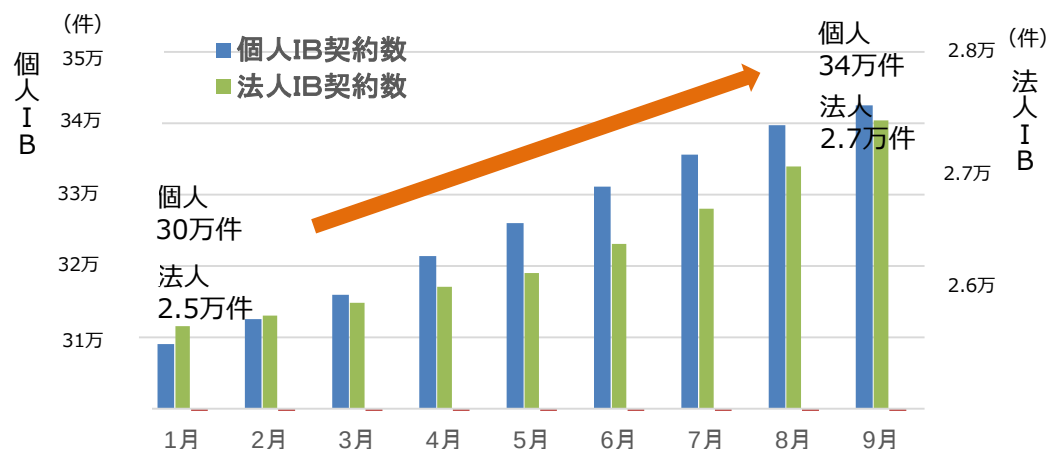
3. 新型コロナウイルス感染症に対する取り組み（2）

ICT支援

ICTコンサルティング

- ・ 肥銀コンピュータサービスによるIT化支援
- ・ テレワーク・WEB会議システム導入支援

非対面取引の推進



副業・兼業支援

- ・ 肥銀オフィスビジネスによる経営人材・専門人材等の紹介

「副業でみんながつながる熊本産マスクプロジェクト」参画（2020.4）

コロナ禍で収入減となった県民の手作りマスクを買取り、無料配布するプロジェクトに参画。7千人が参加、集まった49万枚を無料配布。本プロジェクトをきっかけに、縫製技術を生かした副業を希望される方々を地元シャツ製造会社「HITOYOSHI」へ紹介。



- ・ 高スキル人材を活用した 経営課題解決

地方経済活性化支援

地産品購買支援「きばっど! 鹿児島」プロジェクト

鹿児島銀行が事務局となり、自治体・経済団体等と連携、鹿児島県内の特産品・飲食店・宿泊施設などの情報を集約するポータルサイトを「きばっど!（＝がんばるぞ）カゴシマ」新設し、復興支援に取り組んでいます。



掲載事業者数 **687件**（2020.12.16時点）

県コロナ対策事業へ、総額2億円を寄付

地元経済の復興および地方創生事業への支援の一環として、ふるさと納税の仕組みを活用し、熊本県および鹿児島県が行う「新型コロナウイルス感染症対策事業」に、それぞれ1億円、総額2億円の寄付を行いました。



熊本県知事へ贈呈



鹿児島県知事へ贈呈

4. コロナ禍におけるデジタル化への取り組み

九州フィナンシャルグループ

非対面チャネルの需要拡大への対応

相続手続きセンター開設

2020年11月、肥後銀行において、非対面ニーズへの対応として、「相続手続きセンター」を開設。専用フリーダイヤル、郵送や電子メールでのお手続きのほか、テレビ会議システムを通じてご相談も対応。一部の営業店には、遠隔相談窓口を設置し、ご来店のお客様にモニターを通じて直接ご案内できる。



肥後銀行本店内に設置された相談対応ブース

経営支援プラットフォーム「Big Advance」



2020年8月、中小企業等に対する課題解決支援力の強化およびお客さまとのコミュニケーション活性化を目的として、株式会社ココペリが運営する経営支援プラットフォーム「Big Advance」を導入。

会員数 1,439件 (2020.12.8時点)

チャット機能

ビジネスマッチング

補助金・助成金情報

専門家相談

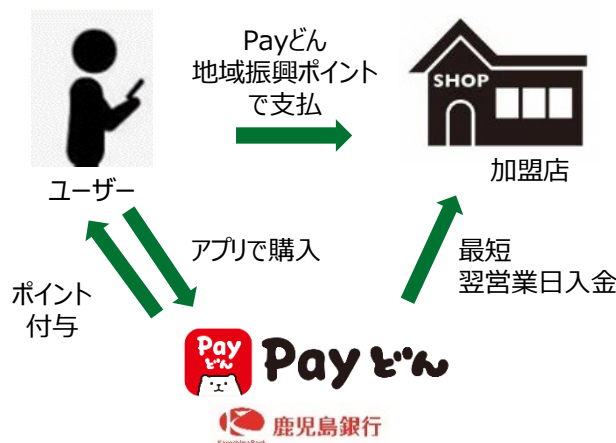
福利厚生サービス

ホームページ作成支援

キャッシュレスサービスへの取り組み推進

Payどんを活用したデジタル地域振興券の発行

自治体などが紙で発行している地域振興券や商品券を電子化し、発行・精算などの業務を効率化することで、事業コストの削減につなげる。



鹿児島銀行本店ビル「よかど鹿児島」



2020年5月、鹿児島銀行本店ビルの商業施設「よかど鹿児島」がグランドオープン。中心市街地の賑わいを創出するとともに、全テナント完全キャッシュレスを実現。地域のキャッシュレス化を促す。

5. 指標目標と2020年度中間期実績

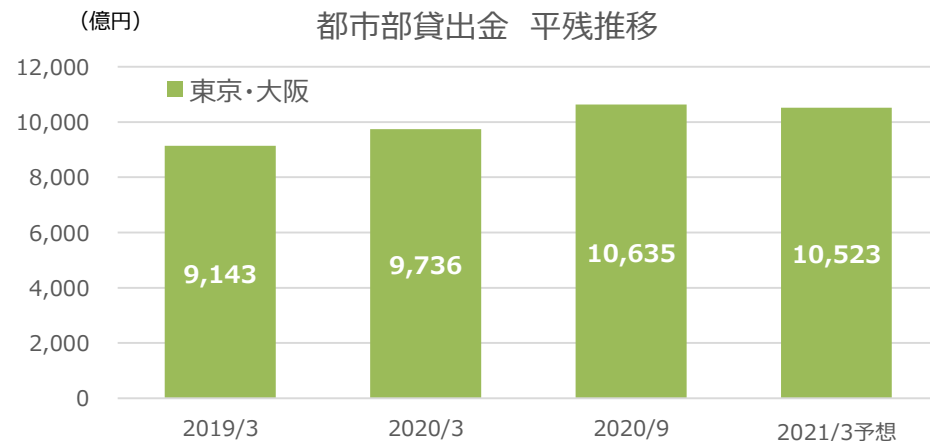
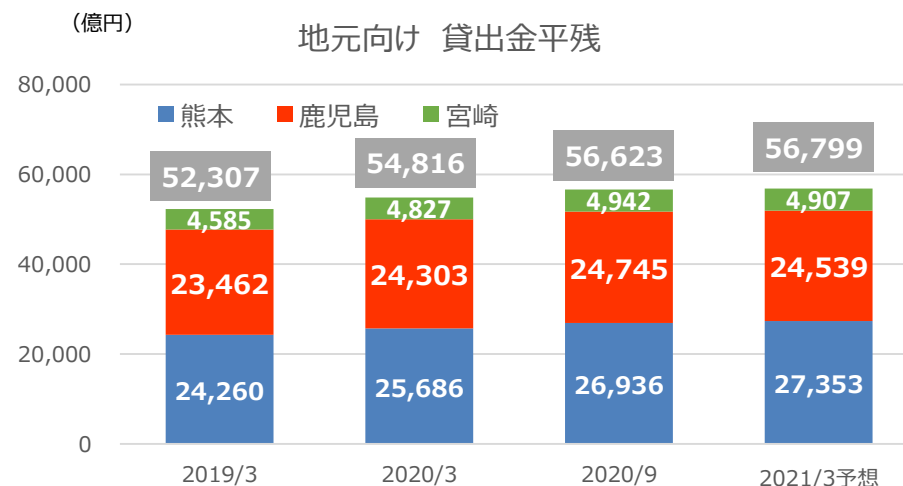
九州フィナンシャルグループ

指標目標	2019年度 実績	2020年度 中間期実績	2020年度 業績予想	2020年度 (最終年度) 目標値
貸出金平残 (2行)	7.1兆円	7.4兆円	7.4兆円	7.6兆円
総預金平残 (NCD含む・2行)	8.7兆円	9.2兆円	8.9兆円	9.2兆円
連結中間純利益	182億円	92億円	150億円	250億円
お客様向けサービス 業務利益 ※	117億円	18億円	103億円	140億円
連結ROE (株主資本)	3.0%	3.0%	2.4%	4%台
連結OHR	67.8%	69.3%	70.4%	70%未満
連結自己資本比率	10.8%	11.1%	10.1%	10%以上

※お客様向けサービス業務利益：貸出金平残×預貸金利回り差＋役務収益等利益－経費

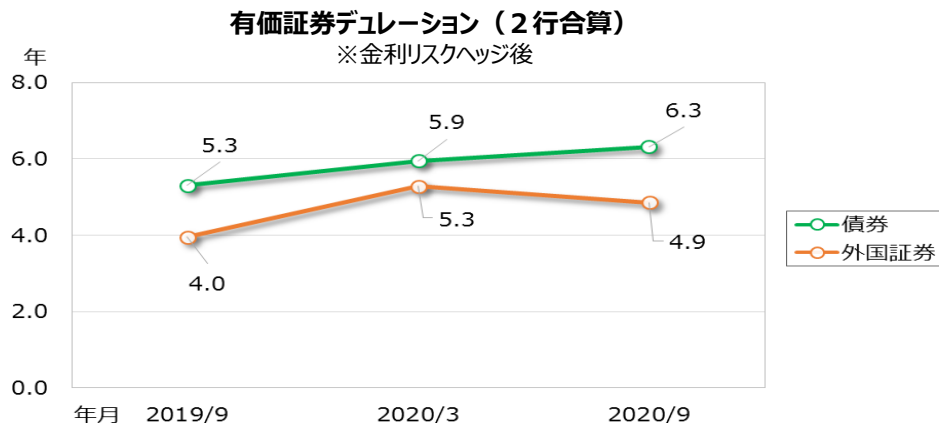
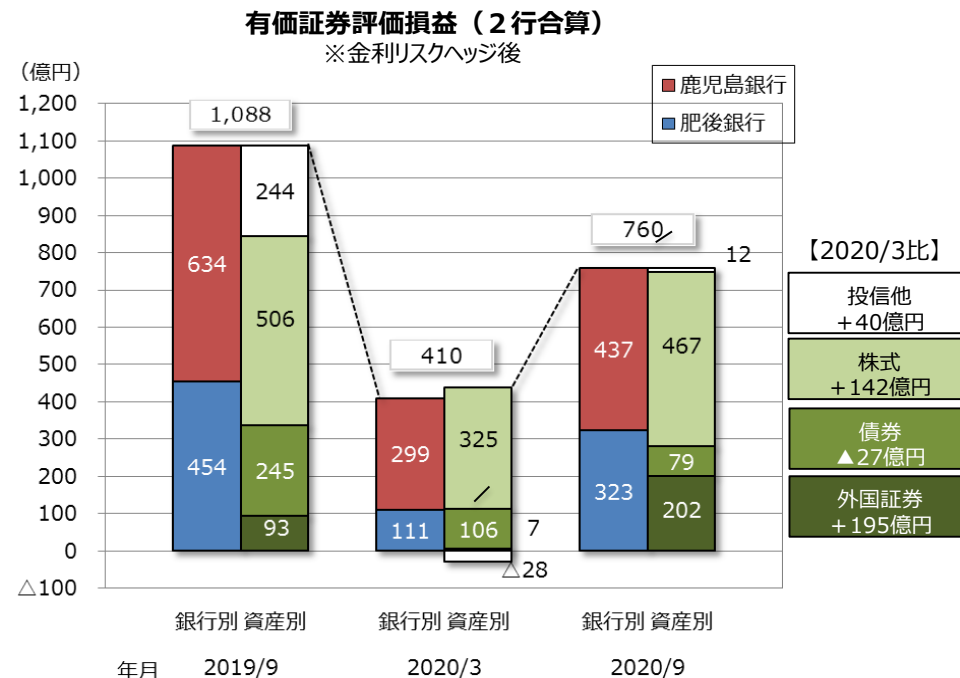
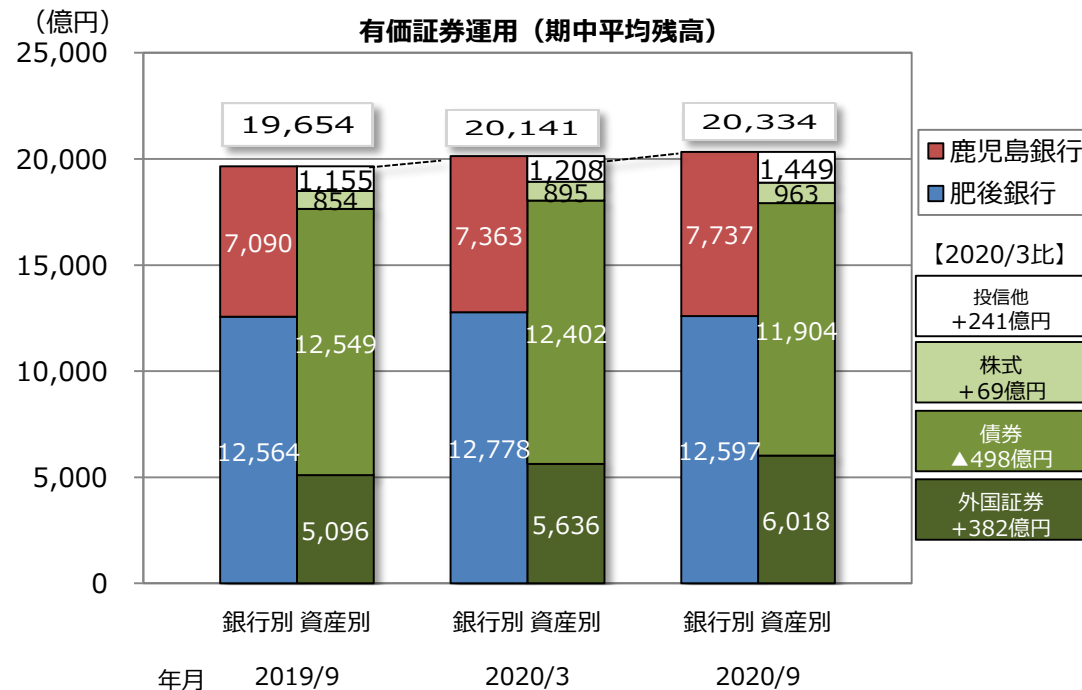
九州フィナンシャルグループ

●地元向け貸出金	コロナ対策、災害・復興支援に向けた金融支援を実施
●北部九州・沖縄向け貸出金	北部九州：2019年7月、福岡ビルを新設、法人拠点を集約し、営業推進強化 沖縄：2店舗体制にて、特に地元関連企業や成長産業（医療・介護・農業）を中心に開拓



7. 市場運用への取り組み

円建て債券の償還を主因に残高減少する中、市場部門では中長期的な収益強化に向け、運用の多様化・機動性向上に取り組んでおります。



- 比較的運用利鞘の厚い、外国証券・株式・投資信託等を積極的に取組み、円建債券以外の有価証券は692億円増加しました。
- 円建債券については、償還等により残高は498億円減少しました。
- 有価証券評価損益は、外国証券の運用強化や株価上昇等を受け、2020年3月末比350億円の増加となりました。

8. 「銀・証・信連携の確立」への取り組み

九州フィナンシャルグループ

2018年1月の九州FG証券開業に続き、2019年4月、肥後銀行・鹿児島銀行本体における信託業務に参入しました。これにより、資産形成層の皆様のご相談や、相続・資産承継ニーズのご相談など、お客様のライフサイクルやご要望に応じ、グループ内の「銀・証・信」連携によるワンストップでのサービスご提供を実現しました。



肥後銀行

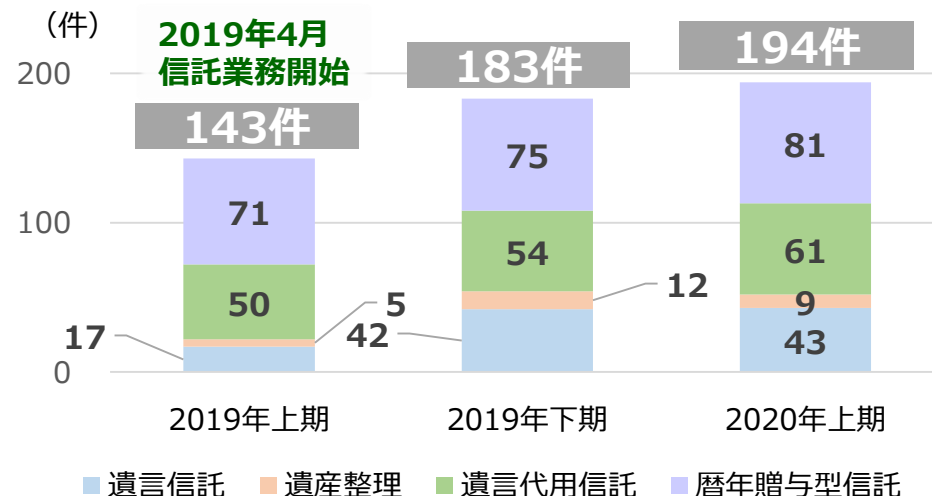


鹿児島銀行

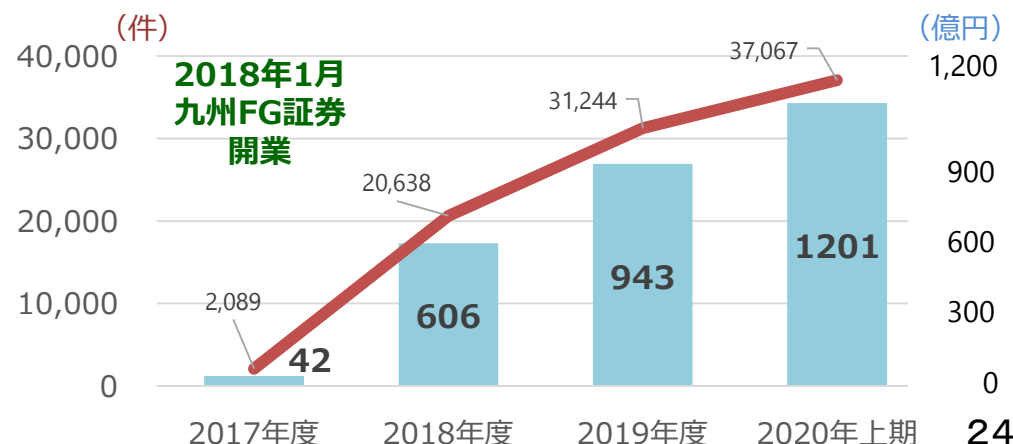


九州FG証券

【信託業務の実績】



【証券口座数・証券預り資産残高の実績】



9. 地域産業振興機能の発揮 (1) クラウドファンディング事業

九州フィナンシャルグループ

株式会社 グローバル・クラウドファンディング

ミュージックセキュリティーズ株式会社、熊本第一信用金庫、九州電力株式会社等の共同出資により、2020年1月に設立。2020年5月より事業開始。



投資型クラウドファンディング事業を開始

第1号案件 くもとクラフトビールの発信

熊本駅発 THE SEAFOOD BEER STATIONファンド



資金使途	2021年4月23日に開業予定の J R 熊本駅ビル内「アミュプラザくもと」出店する飲食店の運営費用。
投資金額	一口 3万円
募集金額	12,810,000円

実施中のプロジェクト

これまで復興支援を目的とした、寄付型、購入型のファンドを組成してきました



【寄付】熊本学生災害支援ボランティア...
学生ボランティアによる子供たちの学習・食育・遊び場支援



永年愛されてきた共同浴場「穴湯」...
黒川温泉郷のシンボル「穴湯」の復活プロジェクト



球磨焼酎を飲んで人吉温泉を応援し...
人吉温泉旅館の女将こだわりの球磨焼酎「ひとよし女将桜」



【寄付】令和2年7月豪雨の被災者に...
前に進む勇気と生きる希望をお仏壇から



球磨焼酎リサイクルの復興資金
地域と球磨焼酎の蔵元による循環型社会への取り組みを守りたい

10. 地域産業振興機能の発揮（2）創業支援

当社グループは、地域の自治体・大学・事業者等との連携により、地域産業の創出・育成に向けた様々な施策展開しております。官民学と連携した各種施策を通じて、地域における新たな産業創出を推進しています。

官

スタートアップビジネス創出支援事業 「Kagoshima Startup Birth Project2020」

今までにない新しいビジネスモデルを構築し、短期間に大きな成長を目指すスタートアップなど、将来、鹿児島発の大きな事業を目指す起業家・事業家の芽づくり・育成と、それらのコミュニティを図ることを目的として、鹿児島市との共催で企画。



2020年度参加者 35名



対 象	- スケール型のビジネスを志向する起業家 - 中小企業 等
内 容	ビジネスの立ち上げに必要な思考様式・知識等を学ぶための講義や、先輩起業家等による指導を組み込んだ、事業創造支援プログラム。

学

肥銀ギャップ資金制度

研究シーズの事業化へ向けて、必要な実証や試作等の資金需要（ギャップ）を埋めるための制度。県内の大学等の研究者を対象として、3年間で50百万円の寄付をおこなう制度。
研究・開発段階にある技術やノウハウを事業化につなげ、熊本発の新たなビジネス創出に貢献する。



2020年度受賞 研究テーマ

マイクロ波加熱技術を用いる廃棄GFRPのリサイクルにおけるギャップの顕在化 (崇城大学)
分裂酵母ジャポニカスKumadai株の育種開発 (熊本大学大学院)
手軽に受診できる癌診断デバイス開発 (熊本大学大学院)
健康長寿社会実現を目指す認知症発症間診断技術の実装 (熊本大学大学院)

人・物・金・情報を繋ぎ、地域を包摂するプラットフォームを構築し、地域のお客様の成長をご支援。

地域のお客様の課題解決支援・利便性向上



九州フィナンシャルグループ

おすすめ
One to One
レコメンド

地域の特産品

病院・介護
情報

住宅選びの
お手伝い

便利で簡単な
銀行取引

バス・タクシーの
利用をより便利に

お客様へのお役立ちと地域貢献のための
デジタルプラットフォーム



（イメージ）

1 2. SDGs・ESG課題への取り組み（全体像）



Kyushu FG

当社グループを
取り巻く環境

少子高齢化

デジタル社会
の到来

感染症対策

自然災害増加

グループ経営理念

サステナビリティ宣言

SDGsの趣旨に賛同し、全役職員が主体的に取り組むことを宣言

1. 持続可能な社会づくりへの取り組み
2. 地域経済発展への取り組み
3. 普及・拡大への取り組み

重要課題

E 環境にやさしい
地域づくり

S 全ての人を支える
地域の基盤づくり

S 全ての人が活躍する
職場・地域づくり

G 地域に必要なとされる
組織づくり

(グループ内)
環境方針
グリーン購入に関する指針
投融資に関する指針

重要課題への
取り組み

(外部枠組み)
TCFD
PRB



目指す姿

CSV（共通価値の創造）の実現

持続可能な地域社会の実現

地域・お客様及び当社グループの持続可能な発展

課題解決

環境 (Environment)

九州フィナンシャルグループでは、地域の豊かな自然を守り、次の世代に確実に受け渡すため、事業活動やさまざまな社会貢献活動を通し、環境保全に努めています。



事業活動を通じた環境対応

- 「投融資に関する指針」に基づいた、気候変動抑制や農林水産業、観光業など地域の基幹産業の振興に資する事業への積極的支援
- 環境配慮型の定期預金、投資信託等商品取り扱い
～阿蘇グリーン定期預金 2,361億円
- 環境格付融資制度・環境配慮型融資商品の推進
- 再生可能エネルギー案件への積極対応
～再生可能エネルギー案件 上期実行額 79億円

社会貢献活動を通じた環境対応

- 「グリーン購入に関する指針」に基づいた、環境配慮の物品購買活動
- 2020年7月1日より粗品配布時等に使用するポリ袋を廃止。更に地域のプラスチック製買物袋を減らすため、鹿児島銀行はエコバックを作成し地域のお客様に無料配布
- 使用済み用紙リサイクルや環境配慮型行用車導入
- 水源涵養林の育成、水田湛水事業、森林整備

➤ T C F D 提言への賛同・対応



当社グループは2019年7月にT C F D 提言への賛同を表明し、気候変動に関する情報開示と取り組みを進めております。

2020年9月に当社グループの肥後銀行が環境省の「TCFD 提言に沿った気候リスク・機会のシナリオ分析パイロットプログラム支援事業」の支援先機関に採択されました。今後も持続可能な企業経営と地域社会の実現を目指してまいります。



「阿蘇水掛の棚田」における水田湛水事業

1 2. SDG s・ESG課題への取り組み②

社会 (Social)

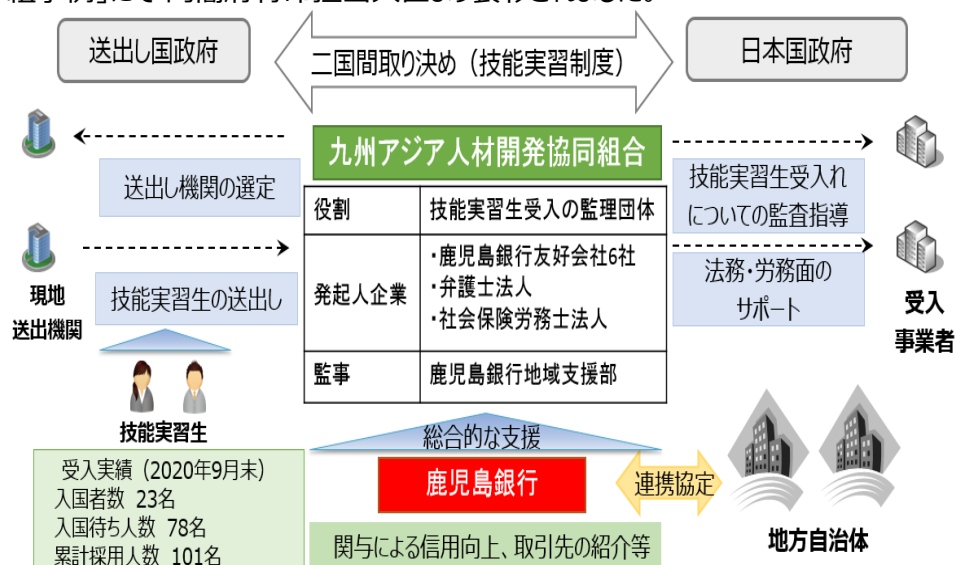
九州フィナンシャルグループでは、地域総合金融機能や地域産業振興機能を発揮することで、地域の長期的な成長を支援し、「活力あふれる地域社会」を、ともに創りあげていきます。



地方創生

外国人技能実習事業を通じた人材に関する課題解決支援

当社グループの鹿児島銀行は、地方創生に資する金融機関等の「特徴的な取組事例」にて 内閣府特命担当大臣より表彰されました。



働き方改革

副業人材マッチングサービスの開始

当社グループの肥後銀行、肥銀オフィスビジネスおよび鹿児島銀行は、株式会社スキルシフトと連携し、地域企業と都市部副業人材をつなぐマッチングサービスを開始しました。地域企業の人材不足の課題解決と、地域の人口創出を目指していきます。

- 朝型勤務制度、インターバル勤務制度、時差勤務制度の導入
- テレワークの積極的な活用

地域貢献

地域の復旧支援への取り組み～令和2年7月豪雨災害

① 人的・物的支援

被災した人吉球磨及び八代地域に、延べ671名のボランティアを派遣すると同時に、移動ATMカーの派遣、特別相談窓口を設置する等、地域の復旧支援に取り組みました。



② 金融的支援

当社が出資する(株)グローバル・クラウドファンディングにおいて、球磨焼酎と観光産業の復興支援のため、寄付型のクラウドファンディングを開設し、約400万円の寄付を行いました。

ESG関連私募債引受 累計額195億円

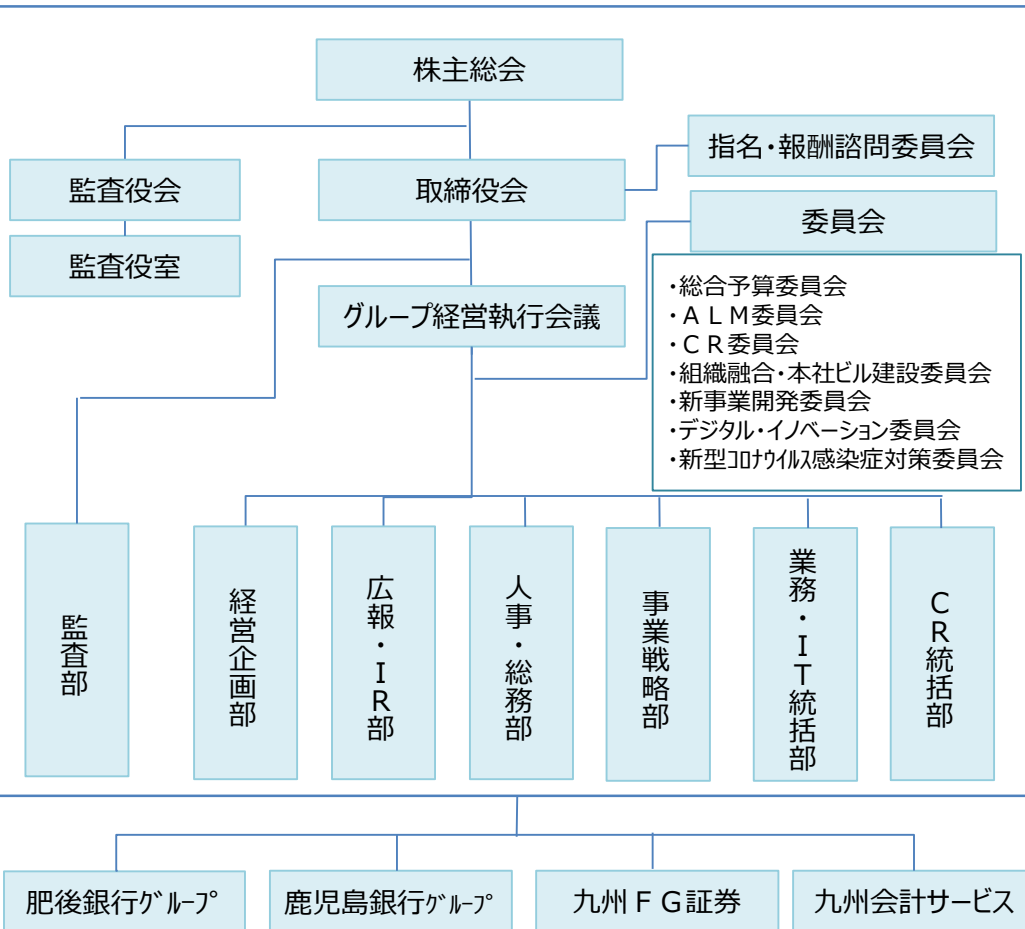
学び舎応援私募債、くまもと復興応援私募債、
 ひびんSDG s 私募債、ひびんSDG s 医療機関債
 かぎんSDG s 推進私募債、かぎんSDG s 推進医療機関債

企業統治 (Governance)

九州フィナンシャルグループでは、グループ経営理念の実現に向け、法令等を遵守し、適切な経営の意思決定と業務執行を図るとともに、経営の透明性、公開性および健全性を高め、コーポレートガバナンスの充実に努めております。



コーポレートガバナンス概略図



▶ 新型コロナウイルス感染症に対する取組み強化

当社グループは、お客様の事業継続・生活維持、そして地域経済の回復、地域の未来づくりに向けた取組みを強化するため、「新型コロナウイルス感染症対策委員会」を新設し、グループ各社の取組状況をモニタリングするとともに、グループ横断的な情報共有を促進しております。また、「CR委員会」において、地域毎に異なる感染リスクレベルを把握するとともに、グループ各社の対応方針や対応状況を共有し、従業員の安心・安全に資する取組を一元的に管理する体制を構築しております。

▶ 役員報酬決定プロセスの明確化

経営陣・監査役の指名・報酬に関する取締役会の諮問機関として、「指名・報酬諮問委員会」を設置するとともに、経営陣の報酬等に関する決定プロセスを明確にしております。

▶ グループ決算業務のガバナンス強化

2020年4月、当社起点によるグループ決算の統括と、当社主導による一貫した専門人材教育の実施を図るため、九州会計サービス株式会社を完全子会社化としました。

※2020年5月12日付 新型コロナウイルス感染症対策委員会新設

1 3. 資本政策～株主還元

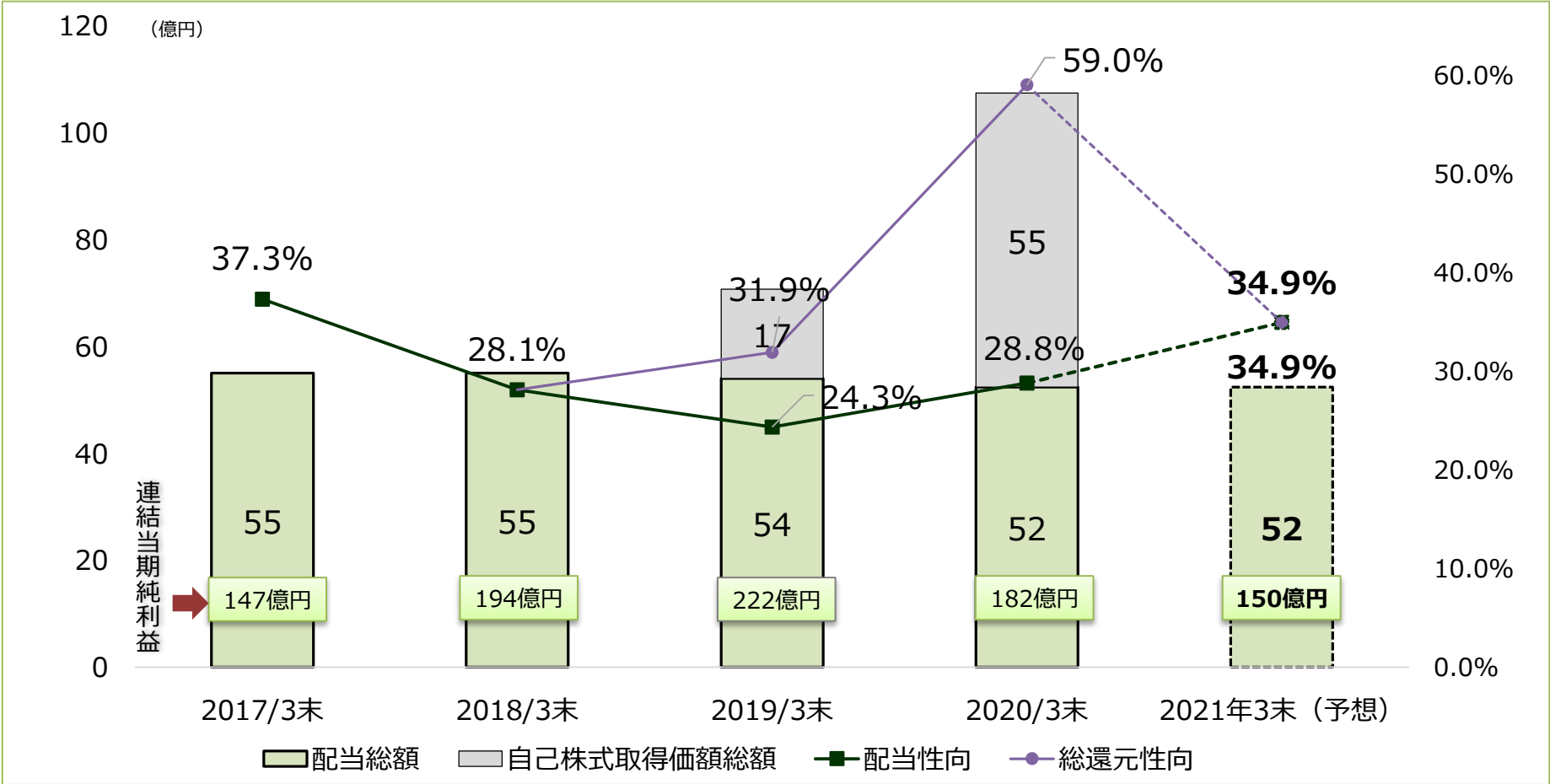
九州フィナンシャルグループは、内部留保の充実に留意しつつ、機動的な資本政策により資本効率を高め、利益成長を通じた安定的な配当を実施することを基本方針とします。

【2021年3月期】

安定的な配当

1株あたり配当金：中間配当6円 通期12円（予定）／総額52億円

配当総額と配当性向の推移



2020年版統合報告書のご案内

2020 Integrated Report

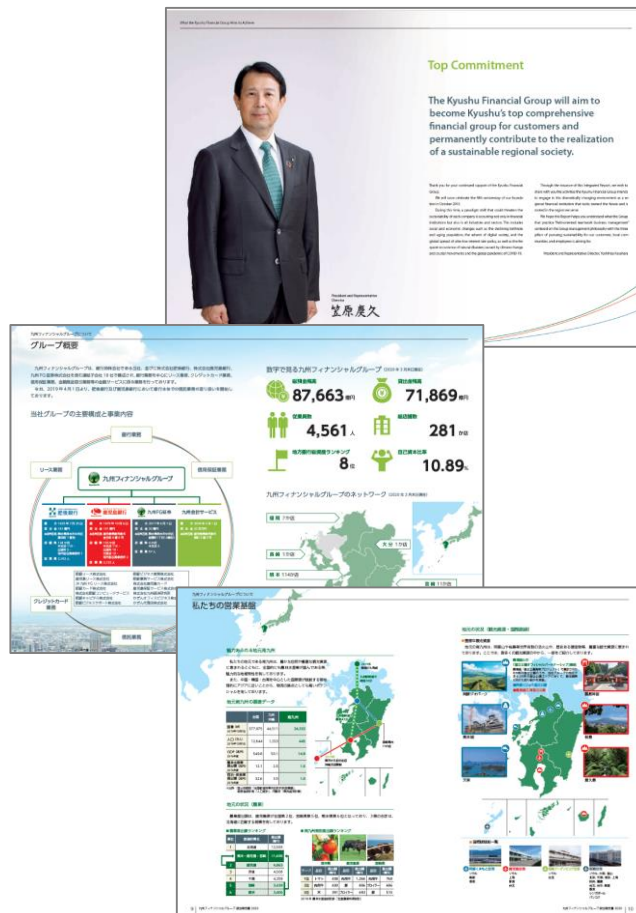
日本語

https://www.kyushu-fg.co.jp/ir/pdf/2020_corporate_report.pdf



English

<https://www.kyushu-fg.co.jp/english/index.html>



計数資料



1. 決算概況

【肥後銀行】

・業務粗利益は、役務取引等利益は減少したものの、資金利益・その他業務利益が増加したことから、前年同期比4億円増加の277億円となった。

・経常利益は、業務純益及び臨時損益も減少したことから、前年同期比26億円減少の88億円となった。

・中間純利益は、前年同期比15億円減少の63億円となった。

肥後銀行 損益状況

(億円)

	2019/9	2020/9	増減
経常収益	379	383	4
業務粗利益	273	277	4
うち資金利益	221	225	4
うち役務取引等利益	33	28	△ 4
うちその他業務利益	19	23	4
(うち国債等債券損益)	25	18	△ 6
経費 (△)	177	181	4
コア業務純益	71	77	6
一般貸倒引当金繰入額 (△)	△ 4	17	22
業務純益	101	78	△ 22
臨時損益	13	9	△ 3
不良債権処理額(△)	9	1	△ 7
株式等関係損益	20	12	△ 7
その他臨時損益	2	△ 1	△ 3
経常利益	114	88	△ 26
特別損益	0	0	0
税引前中間純利益	114	88	△ 26
中間純利益	79	63	△ 15
(与信費用)	4	19	15

【鹿児島銀行】

・業務粗利益は、役務取引等利益・その他業務利益は減少したものの、資金利益が増加したことから、前年同期比並みの273億円となった。

・経常利益は、臨時損益は増加したものの、業務純益が減少したことから、前年同期比18億円減少の65億円となった。

・中間純利益は、前年同期比10億円減少の50億円となった。

鹿児島銀行 損益状況

(億円)

	2019/9	2020/9	増減
経常収益	320	333	12
業務粗利益	272	273	0
うち資金利益	227	239	12
うち役務取引等利益	29	24	△ 4
うちその他業務利益	15	8	△ 7
(うち国債等債券損益)	14	5	△ 8
経費 (△)	173	188	14
コア業務純益	84	79	△ 5
一般貸倒引当金繰入額 (△)	0	6	5
業務純益	98	78	△ 19
臨時損益	△ 14	△ 12	1
不良債権処理額(△)	6	15	9
株式等関係損益	△ 3	4	8
その他臨時損益	△ 4	△ 1	2
経常利益	83	65	△ 18
特別損益	△ 1	△ 0	0
税引前中間純利益	82	65	△ 17
中間純利益	60	50	△ 10
(与信費用)	7	22	15

2. 資金利益

【肥後銀行】 225億円（前年同期比＋4億円）

・国内の貸出金利息が増加し、また外貨調達費用の減少により、前年同期比4億円の増加となった。

【鹿児島銀行】 239億円（前年同期比＋12億円）

・国内、国際の有価証券利息の増加により、前年同期比12億円の増加となった。

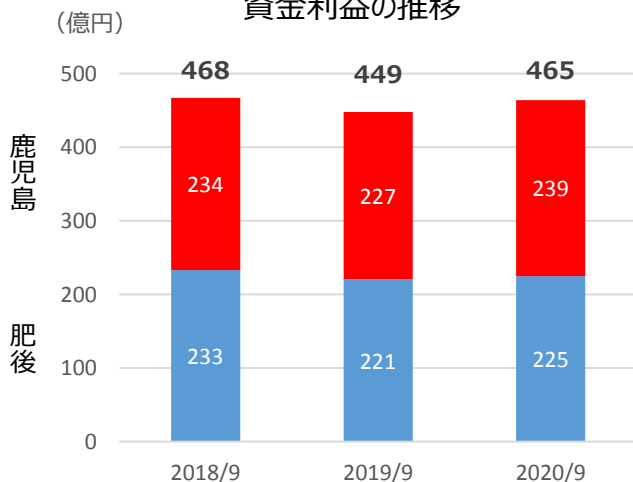
肥後銀行 資金利益の状況

	2018/9	2019/9	2020/9	2019/9 比増減
資金利益	233	221	225	4
国内部門	208	203	205	2
うち貸出金利息	164	165	167	2
うち預金利息	1	1	1	△0
うち有価証券利息	55	46	45	△0
国際部門	25	18	19	1
うち貸出金利息	3	5	4	△1
うち預金利息	0	0	0	△0
うち有価証券利息	35	44	41	△3

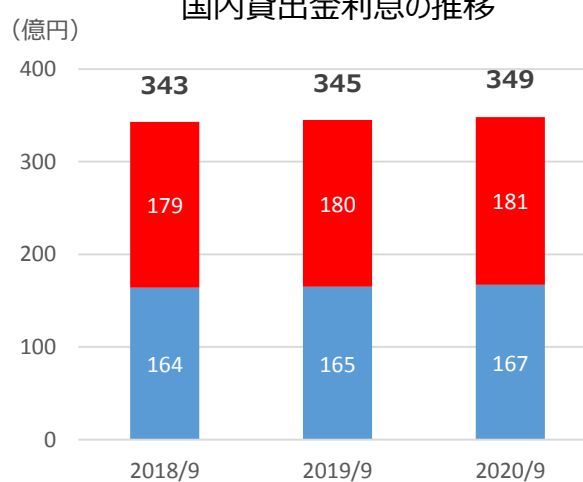
鹿児島銀行 資金利益の状況

	2018/9	2019/9	2020/9	2019/9 比増減
資金利益	234	227	239	12
国内部門	229	220	225	5
うち貸出金利息	179	180	181	0
うち預金利息	2	2	1	△0
うち有価証券利息	52	42	46	3
国際部門	5	7	14	6
うち貸出金利息	0	2	1	△0
うち預金利息	0	0	0	△0
うち有価証券利息	10	15	24	8

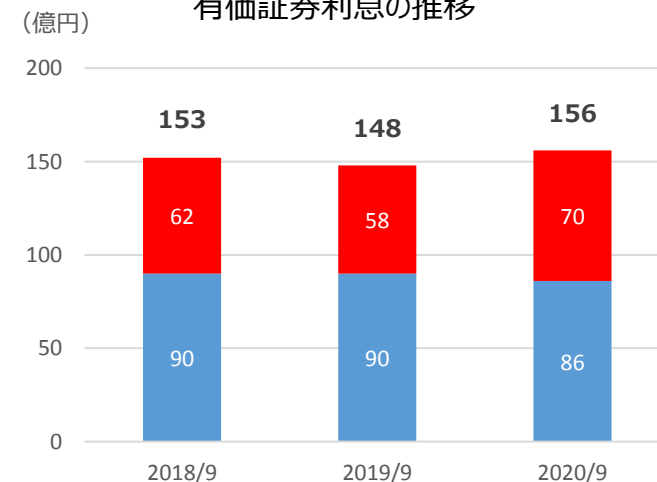
資金利益の推移



国内貸出金利息の推移



有価証券利息の推移



3. 役務取引等利益

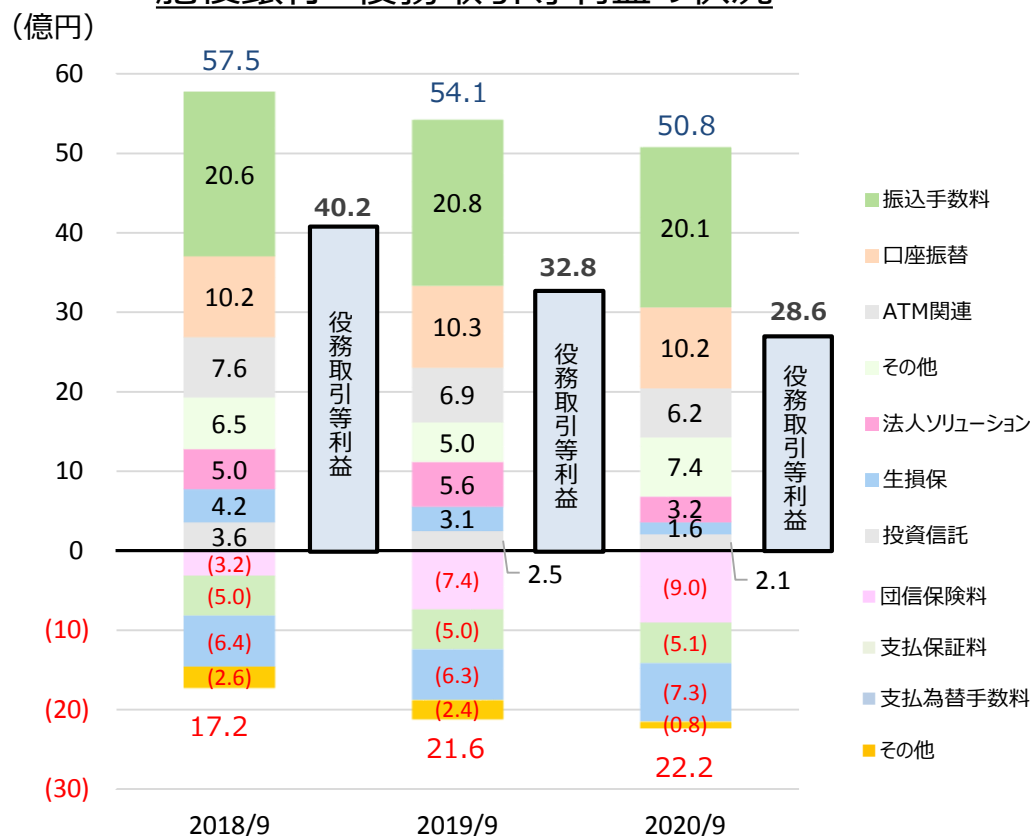
【肥後銀行】

・役務取引等利益は、預り資産関連手数料の減少と団信保険料の増加等により前年同期比4億円減少し28億円となった。

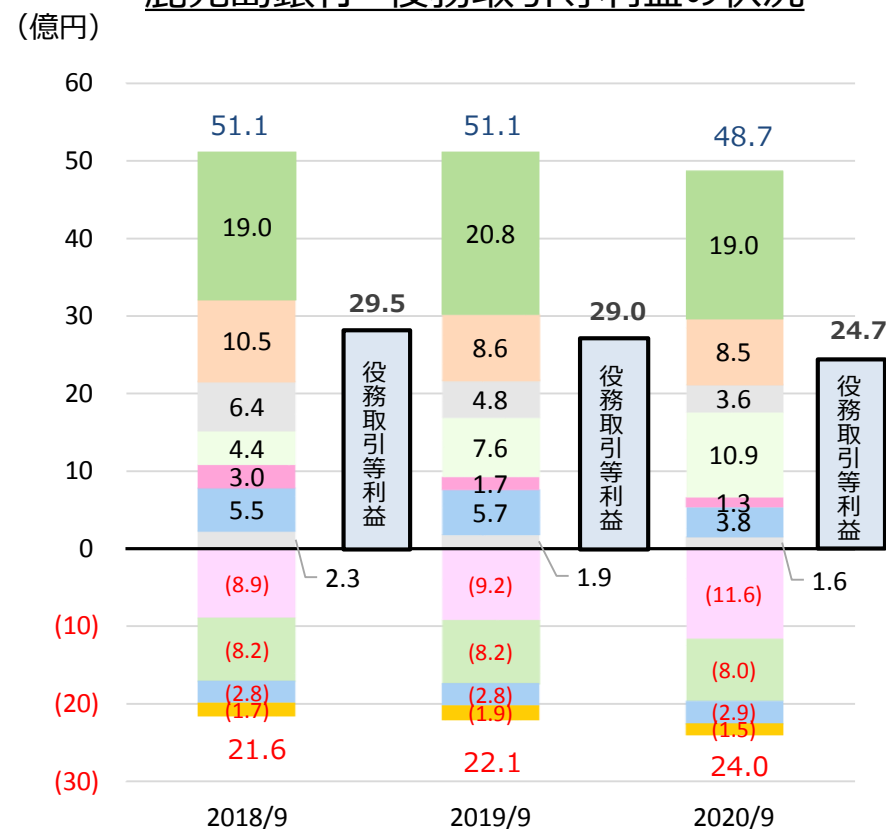
【鹿児島銀行】

・役務取引等利益は、預り資産関連手数料の減少と団信保険料の増加等により前年同期比4億円減少し24億円となった。

肥後銀行 役務取引等利益の状況



鹿児島銀行 役務取引等利益の状況



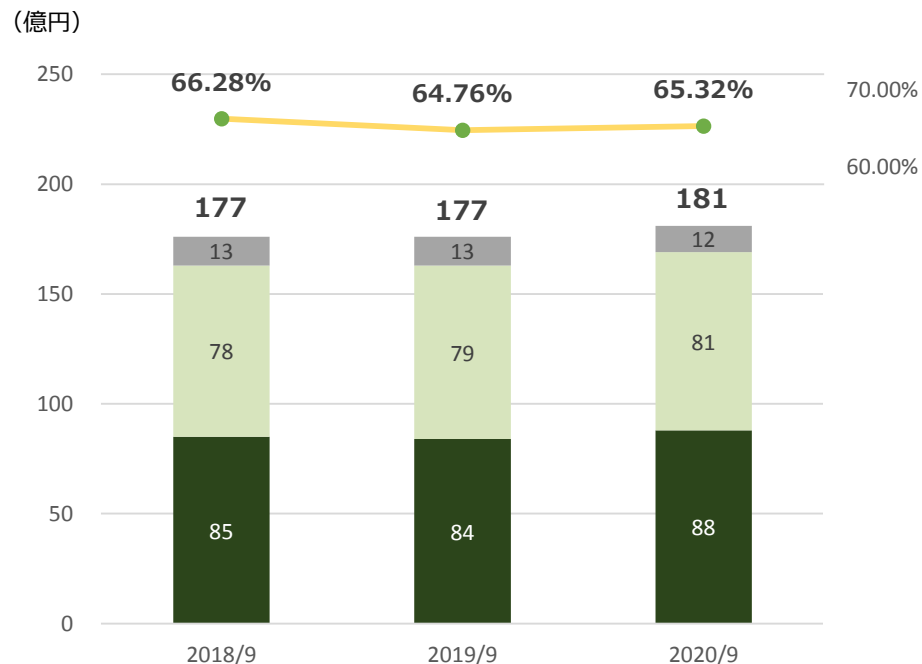
4. 経 費

【肥後銀行】

・経費は、人件費及び物件費の増加により前年同期比4億円増加し181億円となった。

・O H R は、前年同期比 + 0.56% の 65.32% となった。

肥後銀行 経費の状況

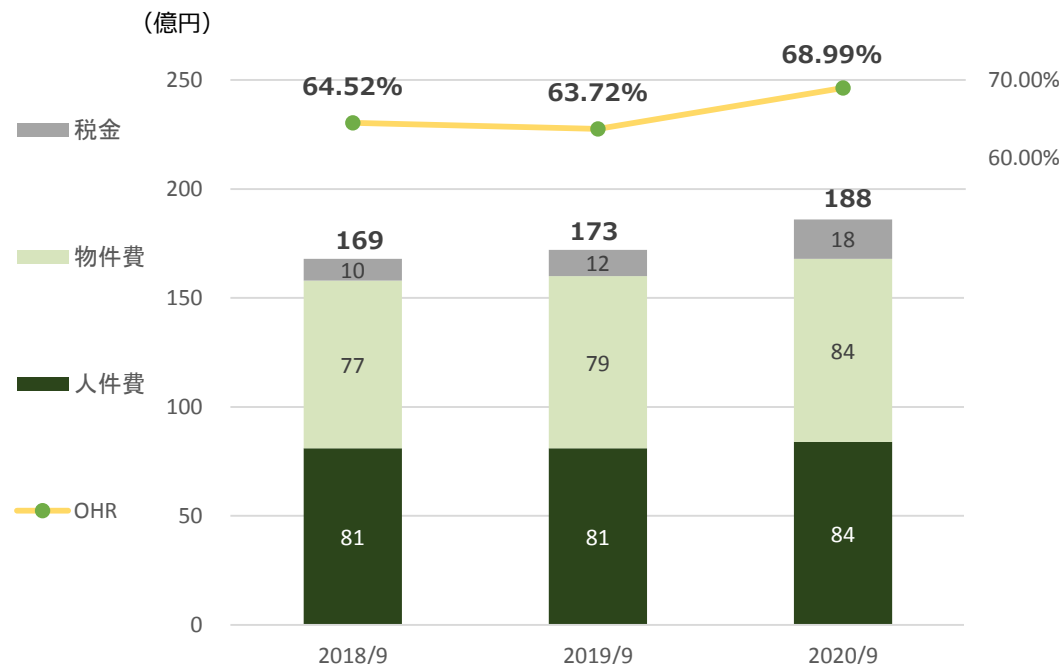


【鹿児島銀行】

・経費は、新本店ビル関連の経費および税金が増加したことから、前年同期比14億円増加し188億円となった。

・O H R は、前年同期比 + 5.27% の 68.99% となった。

鹿児島銀行 経費の状況

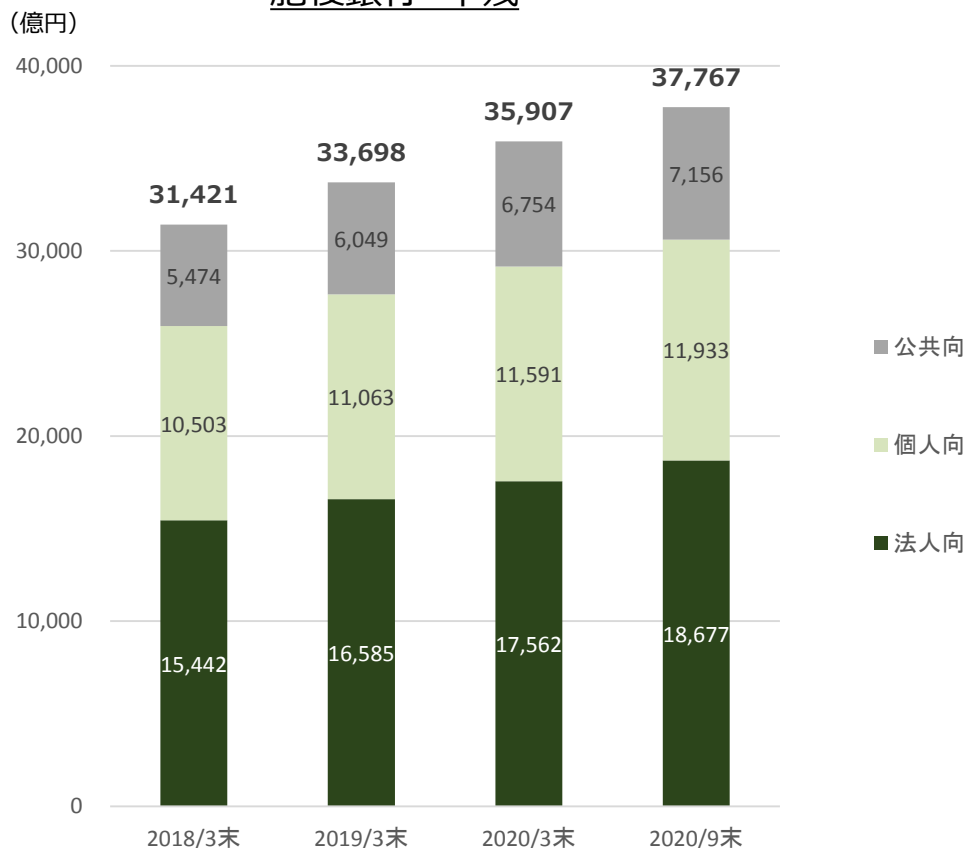


5. 貸出金（平残）

【肥後銀行】（平残）

・各セクター向けの貸出がいずれも増加したことから、
前年度末比1,860億円増加し、3兆7,767億円となった。

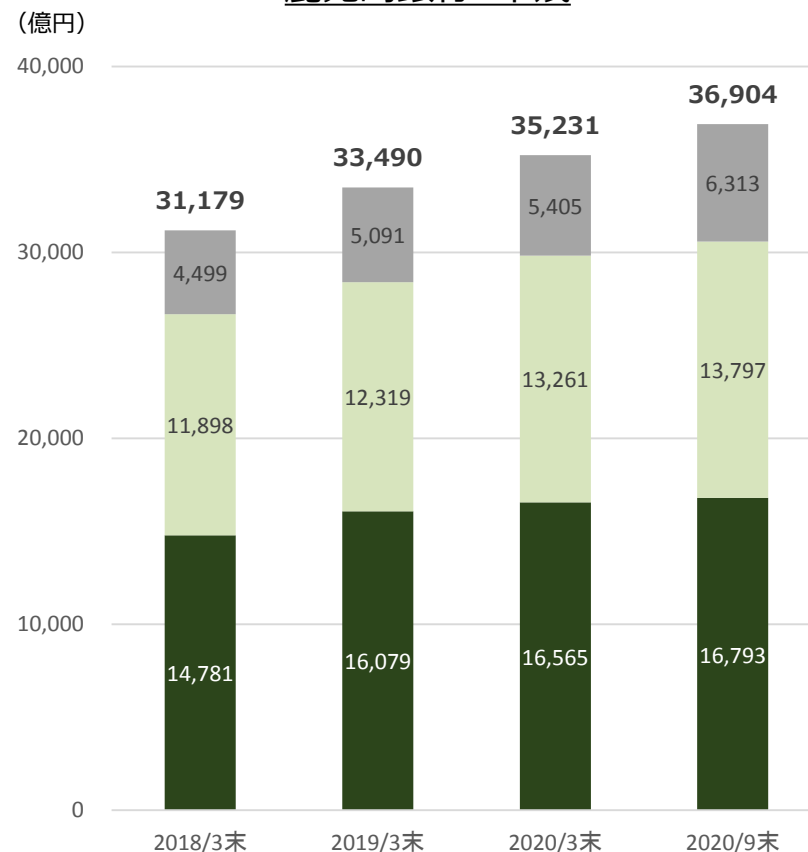
肥後銀行 平残



【鹿児島銀行】（平残）

・各セクター向けの貸出がいずれも増加したことから、
前年度末比1,673億円増加し、3兆6,904億円となった。

鹿児島銀行 平残



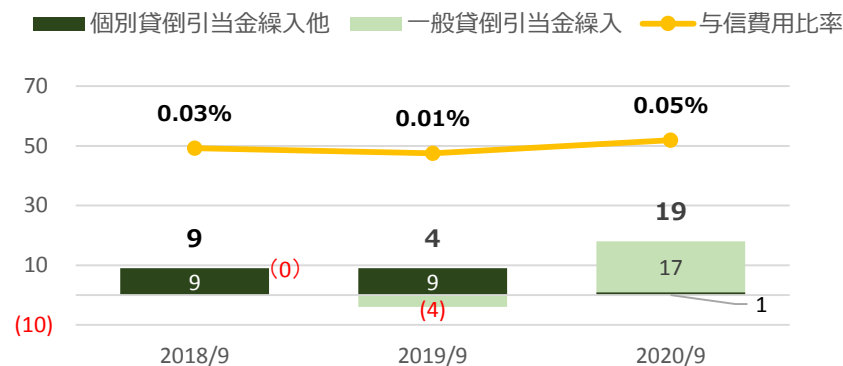
6. 与信費用と金融再生法開示債権

【肥後銀行】

- ・与信費用比率は、前年同期比+0.04%の0.05%となった。
- ・不良債権比率は、前年度末比+0.13%の1.63%となった。

肥後銀行 与信費用の状況

(億円)

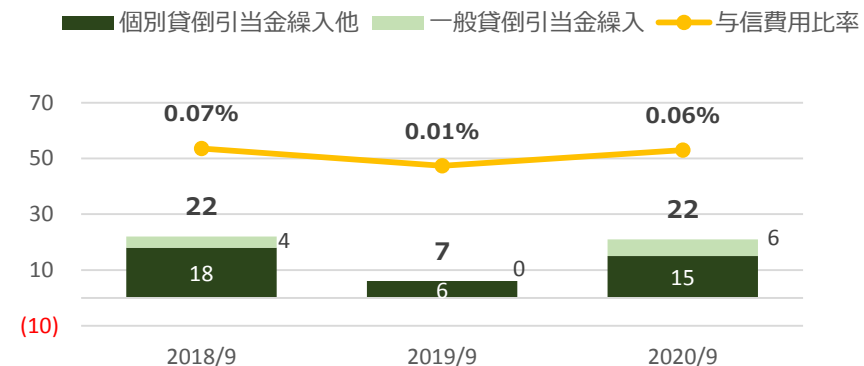


【鹿児島銀行】

- ・与信費用比率は、前年同期比+0.05%の0.06%となった。
- ・不良債権比率は、前年度末同様の2.18%となった。

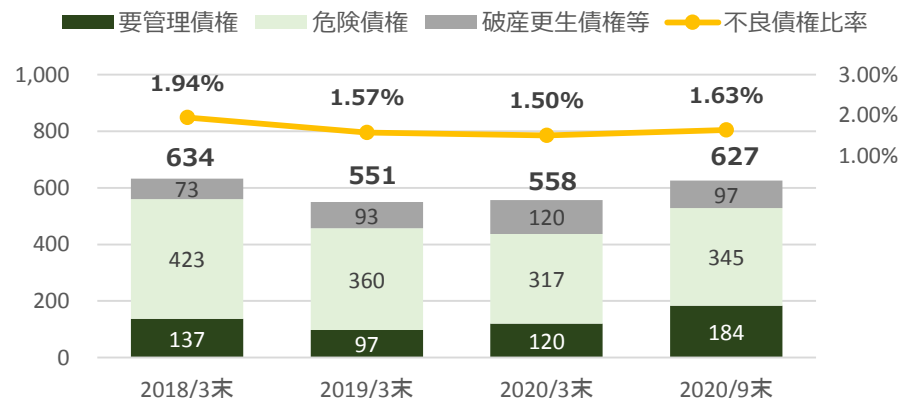
鹿児島銀行 与信費用の状況

(億円)



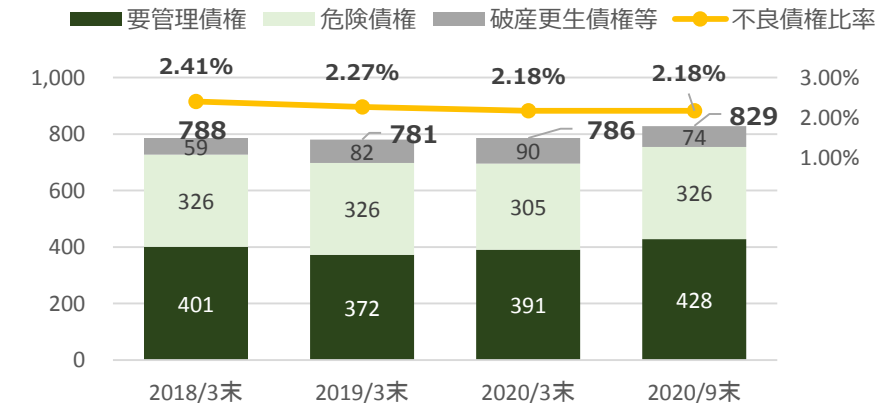
肥後銀行 金融再生法開示債権の状況

(億円)



鹿児島銀行 金融再生法開示債権の状況

(億円)



7. 有価証券

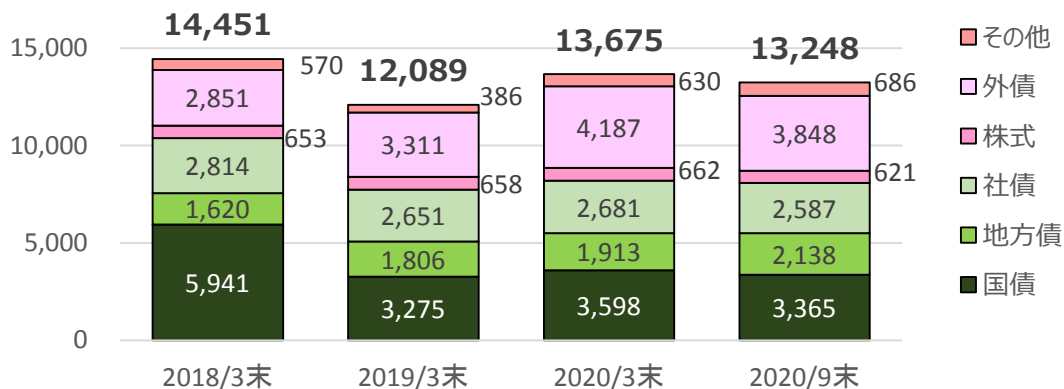
【肥後銀行】

・有価証券残高は、外国証券等が減少したことから、前年度末比426億円減少し1兆3,248億円となった。

肥後銀行 有価証券残高の状況

(億円)

20,000



肥後銀行 有価証券評価損益の状況

(億円)

950

750

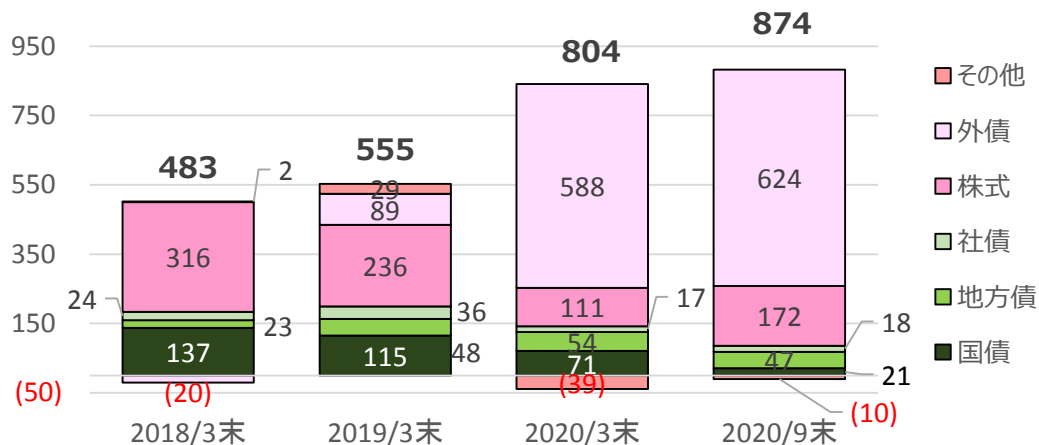
550

350

150

(50)

(20)



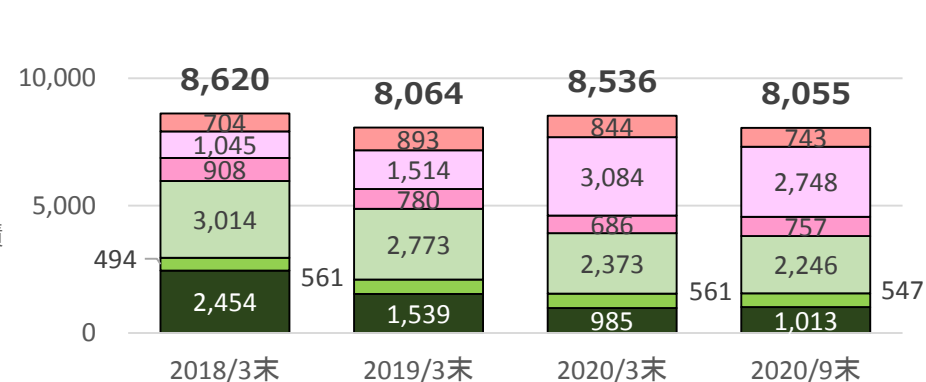
【鹿児島銀行】

・有価証券残高は、外国証券等が減少したことから、前年度末比480億円減少し8,055億円となった。

鹿児島銀行 有価証券残高の状況

(億円)

15,000



鹿児島銀行 有価証券評価損益の状況

(億円)

750

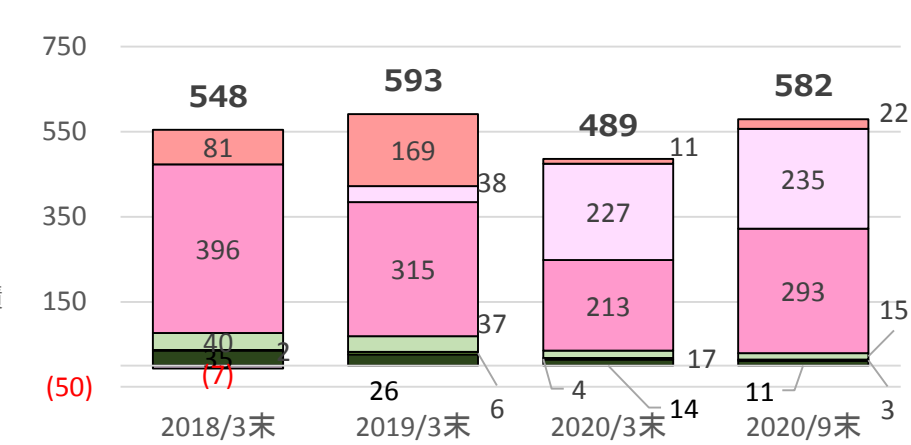
550

350

150

(50)

(7)



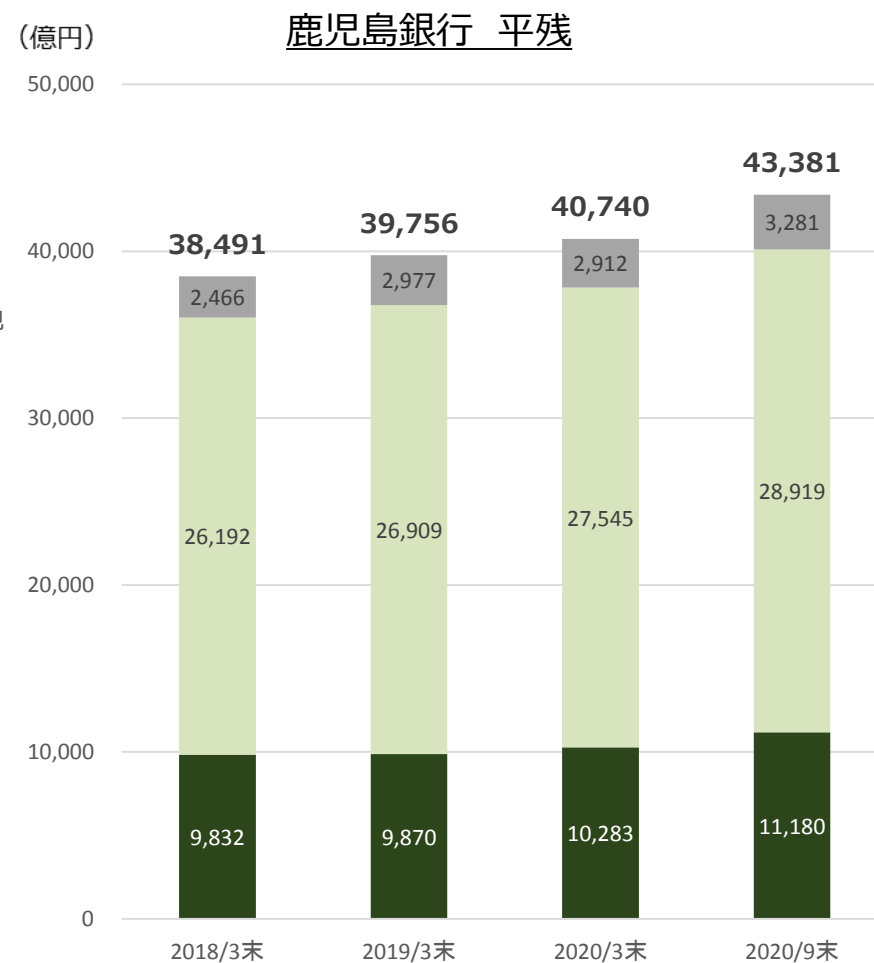
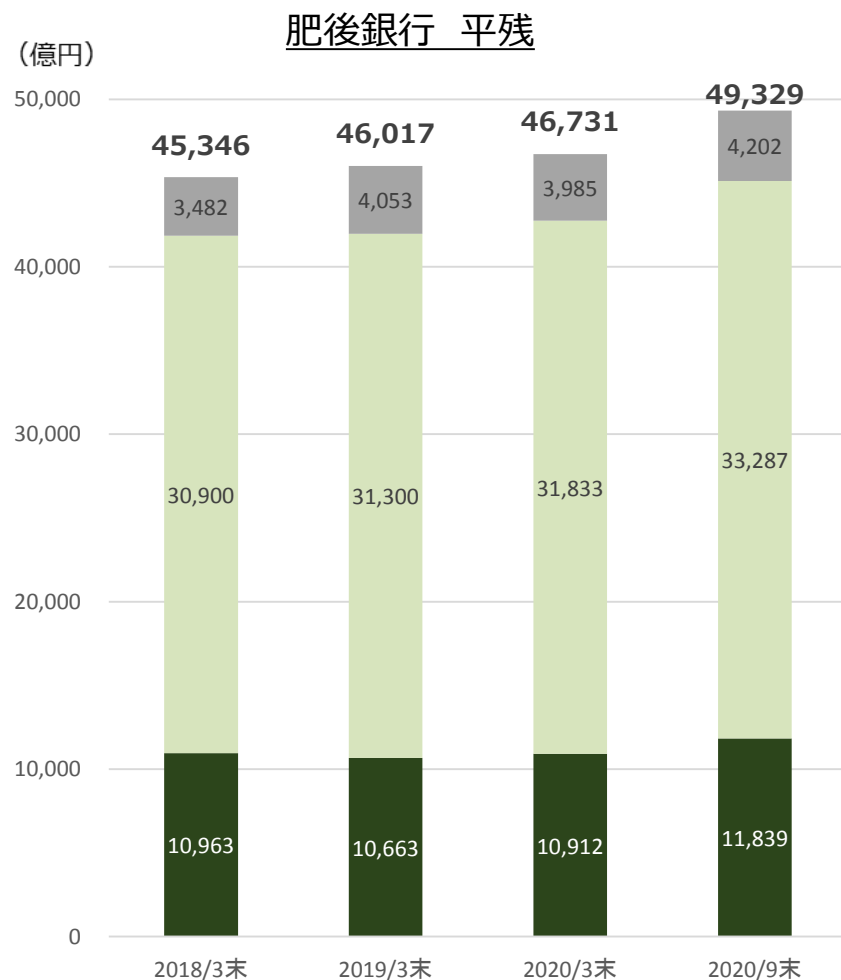
8. 総預金（含むNCD）（平残）

【肥後銀行】

・総預金平残は、全セクターで増加しており、前年度末比2,598億円増加し4兆9,329億円となった。

【鹿児島銀行】

・総預金平残は、全セクターで増加しており、前年度末比2,641億円増加し4兆3,381億円となった。

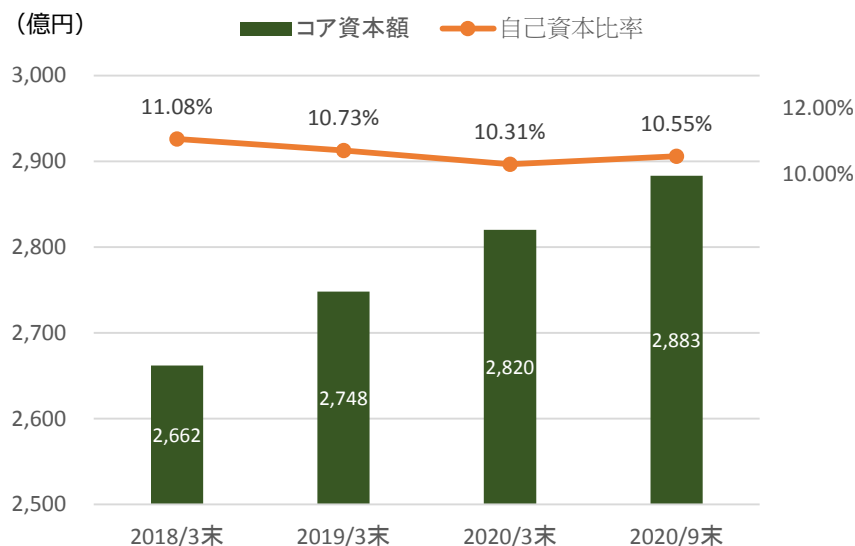


9. 自己資本比率

【肥後銀行】

・自己資本比率は、コア資本額が増加し、リスクアセットも減少したことから、前年度末比+0.24%の10.55%となった。

肥後銀行 自己資本比率の状況

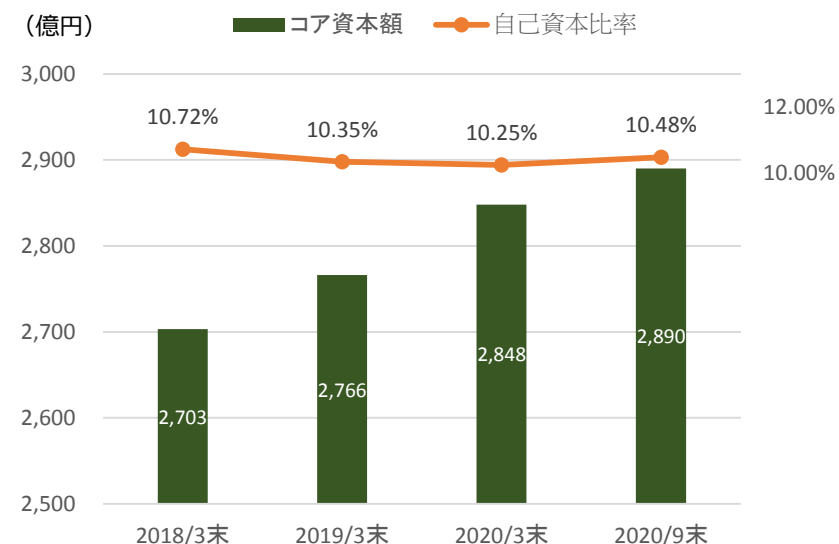


	(億円)				
	2018/3	2019/3	2020/3	2020/9	2020/3比増減
①コア資本額	2,662	2,748	2,820	2,883	62
②リスクアセット	24,020	25,610	27,352	27,305	△ 47
③自己資本比率 (①÷②)	11.08%	10.73%	10.31%	10.55%	0.24%

【鹿児島銀行】

・自己資本比率は、コア資本額が増加し、リスクアセットも減少したことから、前年度末比+0.23%の10.48%となった。

鹿児島銀行 自己資本比率の状況



	(億円)				
	2018/3	2019/3	2020/3	2020/9	2020/3比増減
①コア資本額	2,703	2,766	2,848	2,890	41
②リスクアセット	25,211	26,716	27,780	27,573	△ 207
③自己資本比率 (①÷②)	10.72%	10.35%	10.25%	10.48%	0.23%

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。

こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。

将来の業績は、経営環境の変化等により、目標対比異なる可能性があることにご留意ください。



Kyushu FG

本件に関するお問い合わせ先

株式会社 九州フィナンシャルグループ 広報・IR部

TEL 096-326-5607